

2024年3月期
決算説明会資料

2024年5月8日
株式会社エフピコ

証券コード：7947

本資料取り扱いのご注意



掲載する情報に関しまして、細心の注意を払っております。将来の予測等に関する情報は、現時点で入手可能な情報にもとづき、当社が判断した予測であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により実際の業績は、記述している将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があります。

本資料に掲載する情報の、**無断での引用や転載、複製は禁じられております。**

- **2024年3月期 決算概要** … **4**
- **企業価値拡大に向けて** … **14**
- **添付資料** … **62**

2024年3月期 決算概要

専務取締役 経理財務本部本部長
池上 功

決算概要 (2024年3月期 実績)

単位: 百万円	通期 実績							通期 期初計画		
	2023年3月期		2024年3月期					2024年3月期		
	実績	構成比	実績	構成比	増減	前年比	数量	計画	構成比	計画比
トレー	41,199	19.5	41,943	18.9	+744	101.8%	99.3%	43,600	19.7	96.2%
弁当・惣菜	121,191	57.4	125,915	56.7	+4,724	103.9%	100.4%	128,000	57.8	98.4%
小計	162,390	76.9	167,859	75.6	+5,468	103.4%	100.0%	171,600	77.5	97.8%
その他製品	3,669	1.7	3,794	1.7	+124	103.4%		3,900	1.8	97.3%
製品売上高	166,060	78.6	171,653	77.3	+5,593	103.4%		175,500	79.3	97.8%
包装資材	43,114	20.4	48,035	21.6	+4,920	111.4%		43,700	19.7	109.9%
その他商品	2,111	1.0	2,411	1.1	+300	114.2%		2,100	0.9	114.8%
商品売上高	45,225	21.4	50,446	22.7	+5,221	111.5%		45,800	20.7	110.1%
売上高	211,285	100.0	222,100	100.0	+10,814	105.1%		221,300	100.0	100.4%
営業利益	16,703	7.9	16,429	7.4	△274	98.4%		17,350	7.8	94.7%
経常利益	17,328	8.2	16,780	7.6	△548	96.8%		18,000	8.1	93.2%
親会社株主に帰属する当期純利益	11,529	5.5	11,724	5.3	+195	101.7%		11,808	5.3	99.3%
償却前経常利益	31,509		31,833		+323	101.0%		33,200		95.9%

過去最高

✓ 売上高
14期連続増収

◇販売

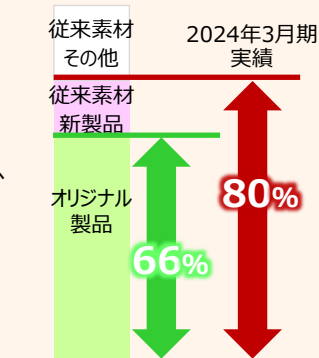
製品>

- ・エコ製品や新低発泡PSP容器、惣菜向けなど付加価値の高い製品の販売が堅調
- ・第二次製品価格改定（2022年4月公表）による増収効果
- ・物価上昇を背景としたスーパーにおける買い上げ点数減少の影響はあるものの、2023年9月に対前年比で増加に転じて以降、数量は回復基調

商品>

- ・価格改定の浸透
- ・当社グループのインフラを活用した効率化提案
- ・アベックスのM&A効果

◇製品売上構成比

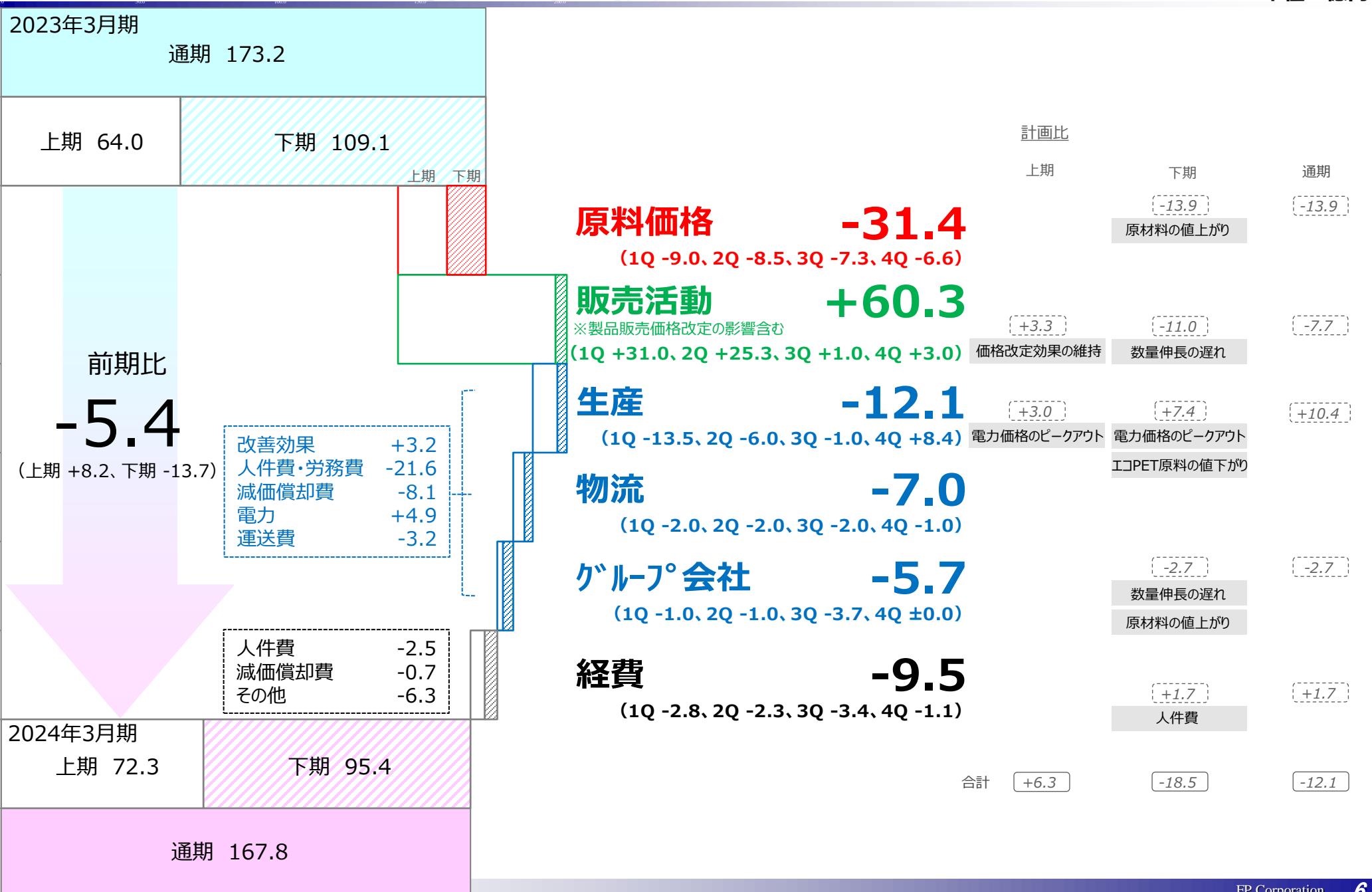


◇実績前期比

	1Q 実績	2Q 実績	3Q 実績	4Q 実績	通期 実績
製品売上高	108.7%	104.0%	99.4%	102.2%	103.4%
製品枚数	98.4%	99.2%	100.3%	102.6%	100.0%
2020年3月期比	108.8%	108.3%	108.0%	108.0%	108.3%
年平均成長率(CAGR)	2.1%	2.0%	1.9%	2.0%	2.0%
経常利益	109.1%	116.2%	80.2%	110.3%	96.8%
経常利益率	6.1%	7.2%	10.7%	5.6%	7.6%

経常利益 利益増減実績 (2024年3月期)

単位：億円



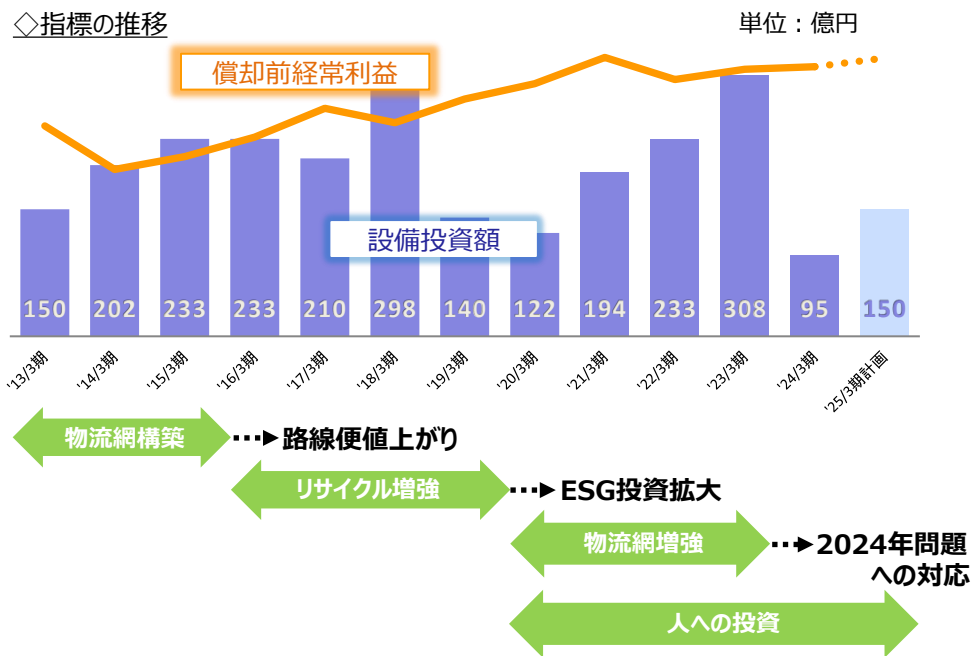
設備投資・研究開発費 (2024年3月期 実績)

単位: 百万円	通期 実績					通期 計画	
	2023年3月期	2024年3月期			2024年3月期		
	実績	実績	増減	前年比	計画	計画比	
有形固定資産	30,121	9,098	△21,022	30.2%	12,500	72.8%	
無形固定資産	732	493	△239	67.4%	500	98.7%	
設備投資	30,853	9,591	△21,261	31.1%	13,000	73.8%	
減価償却費	14,180	15,052	+871	106.1%	15,200	99.0%	
研究開発費	1,295	1,483	+187	114.5%	1,506	98.5%	

【主な設備投資】

単位: 百万円	投資総額	2024年3月期 計画	通期実績	
<u>オリジナル製品への投資：エコAPET製品の生産能力・品質向上</u>				
◆ エコAPET原料 生産性向上 (関東・中部)	547	547	307	
◆ エコAPET原料 生産能力増強(NPR)	455	455	206	
◆ エコAPET製品 生産能力増強	240	240	191	
<u>販売量拡大への投資：安定供給・効率改善・働く環境整備</u>				
◆ 自動化設備の導入		294	176	
◆ 従来素材製品能力増強	1,777	1,579	1,078	
◆ 関西選別センター	2024年 9月 完成予定	944	391	209
◆ グループ会社生産拠点の増強 ダンボール工場増床	2024年 8月 完成予定	3,527	986	1,338
◆ 金型			1,785	1,436
◆ IT投資			720	628

◇指標の推移



貸借対照表 (2024年3月期 実績)

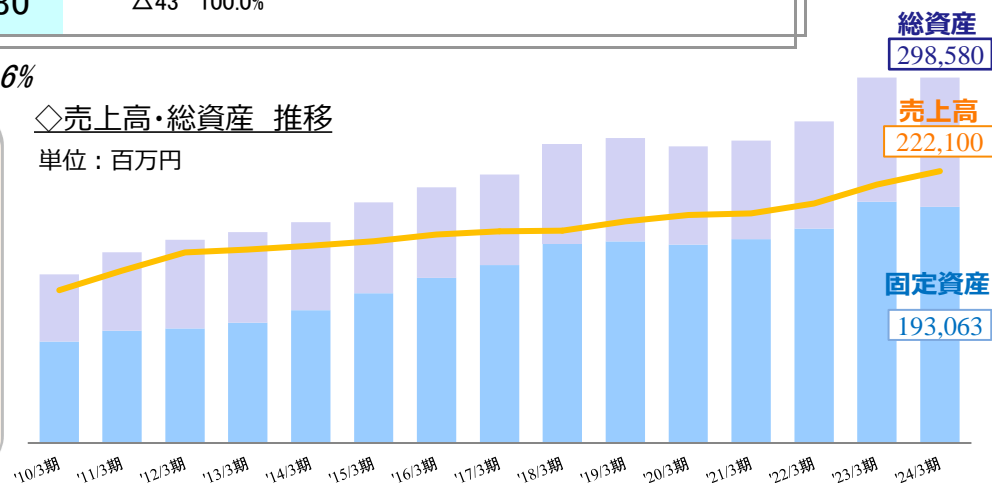
単位:百万円	前連結会計年度		当連結会計年度			
	2023年3月期 2023/3/31	2024/3/31	増減	前年比	2024年3月期 主な増減内訳	
流動資産	101,413	105,516	+4,103	104.0%	受取手形及び売掛金 +5,311	
固定資産	197,210	193,063	△4,146	97.9%	建物及び構築物(純額) △5,046 機械装置及び運搬具(純額) △2,419 のれん等無形固定資産 +1,829	
資産合計	298,623	298,580	△43	100.0%		
流動負債	83,883	86,201	+2,317	102.8%	支払手形及び買掛金 +2,362	
固定負債	74,568	66,534	△8,033	89.2%	長期借入金 △8,361	
負債合計	158,452	152,735	△5,716	96.4%		
純資産合計	140,171	145,844	+5,673	104.0%	利益剰余金 +7,877 自己株式 △2,951	
負債純資産合計	298,623	298,580	△43	100.0%		

自己資本比率 48.6%

- 資産 オリジナル製品の能力増強と安定供給への戦略投資
取引先への効率化提案に向けたインフラの活用
- 負債 戦略投資の原資として借入金の活用
- 純資産 配当性向の引き上げ、自己株式の取得による株主還元の実現

◇売上高・総資産 推移

単位:百万円

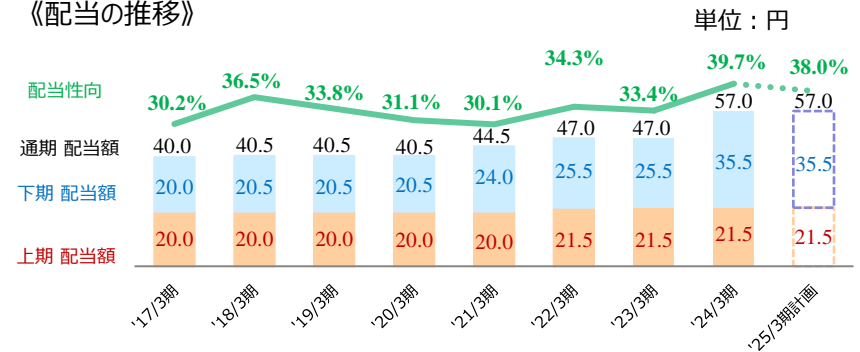


キャッシュ・フロー (2024年3月期 実績)

単位:百万円	通期	
	2023年3月期 実績	2024年3月期 実績 主な内訳
営業活動によるC/F	20,071	29,176 税金等調整前当期純利益 16,984 減価償却費 15,052 売上債権の増減額(△は増加) △ 5,121
投資活動によるC/F	△ 34,306	△ 10,711 有形固定資産の取得 △ 11,352
フリーキャッシュフロー	△ 14,234	18,464
財務活動によるC/F	16,745	△ 17,013 長期借入れによる収入 6,000 長期借入金の返済 △ 14,895 自己株式の取得による支出 △ 3,050 リース債務の返済 △ 1,188 配当金の支払額 △ 3,846
現金及び現金同等物の増減額	2,510	1,451
現金及び現金同等物の期末残高	22,255	23,707

- 営業CF オリジナル製品販売と合理化による安定的な利益確保
- 投資CF 収益基盤構築に向けた戦略投資を実施
製品・サービスの拡充、物流インフラの活用に向けたM&A
- 財務CF 配当性向の引き上げ、自己株式の取得による株主還元の充実
※2024年2月 自己株式の取得を実施

《配当の推移》



※当社は、2020年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。
2017年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、配当金額を記載しております。

2025年3月期
計画

決算計画概要 (2025年3月期 計画)

	通期 実績		通期 計画				上期 計画				
	2024年3月期		2025年3月期				2025年3月期				
	実績	構成比	計画	構成比	増減	前年比	計画	構成比	増減	前年比	
単位:百万円											
トレー	41,943	18.9	44,455	18.8	+2,511	106.0%	21,673	18.7	+1,032	105.0%	
弁当・惣菜	125,915	56.7	131,524	55.7	+5,608	104.5%	65,153	56.2	+2,292	103.6%	
小計	167,859	75.6	175,979	74.6	+8,119	104.8%	86,826	74.9	+3,324	104.0%	
その他製品	3,794	1.7	3,831	1.6	+36	101.0%	1,884	1.6	△96	95.1%	
製品売上高	171,653	77.3	179,810	76.2	+8,156	104.8%	88,710	76.5	+3,227	103.8%	
包装資材	48,035	21.6	53,750	22.8	+5,714	111.9%	26,084	22.5	+4,069	118.5%	
その他商品	2,411	1.1	2,440	1.0	+28	101.2%	1,206	1.0	△23	98.0%	
商品売上高	50,446	22.7	56,190	23.8	+5,743	111.4%	27,290	23.5	+4,045	117.4%	
売上高	222,100	100.0	236,000	100.0	+13,899	106.3%	116,000	100.0	+7,273	106.7%	
営業利益	16,429	7.4	17,800	7.5	+1,370	108.3%	6,400	5.5	△581	91.7%	
経常利益	16,780	7.6	18,000	7.6	+1,219	107.3%	6,500	5.6	△735	89.8%	
親会社株主に帰属する当期純利益	11,724	5.3	12,122	5.1	+397	103.4%	4,361	3.8	△761	85.1%	
償却前経常利益	31,833		32,800		+966	103.0%	13,950		△866	94.2%	

■ 販売

- 製品>**
- ・エコ製品、軽量化製品の販売拡大
 - ・製品価格改定による増収を見込む
 - ・冷食市場や病院介護食市場などへの高機能製品提案
出荷枚数：前年比102.5%の伸長

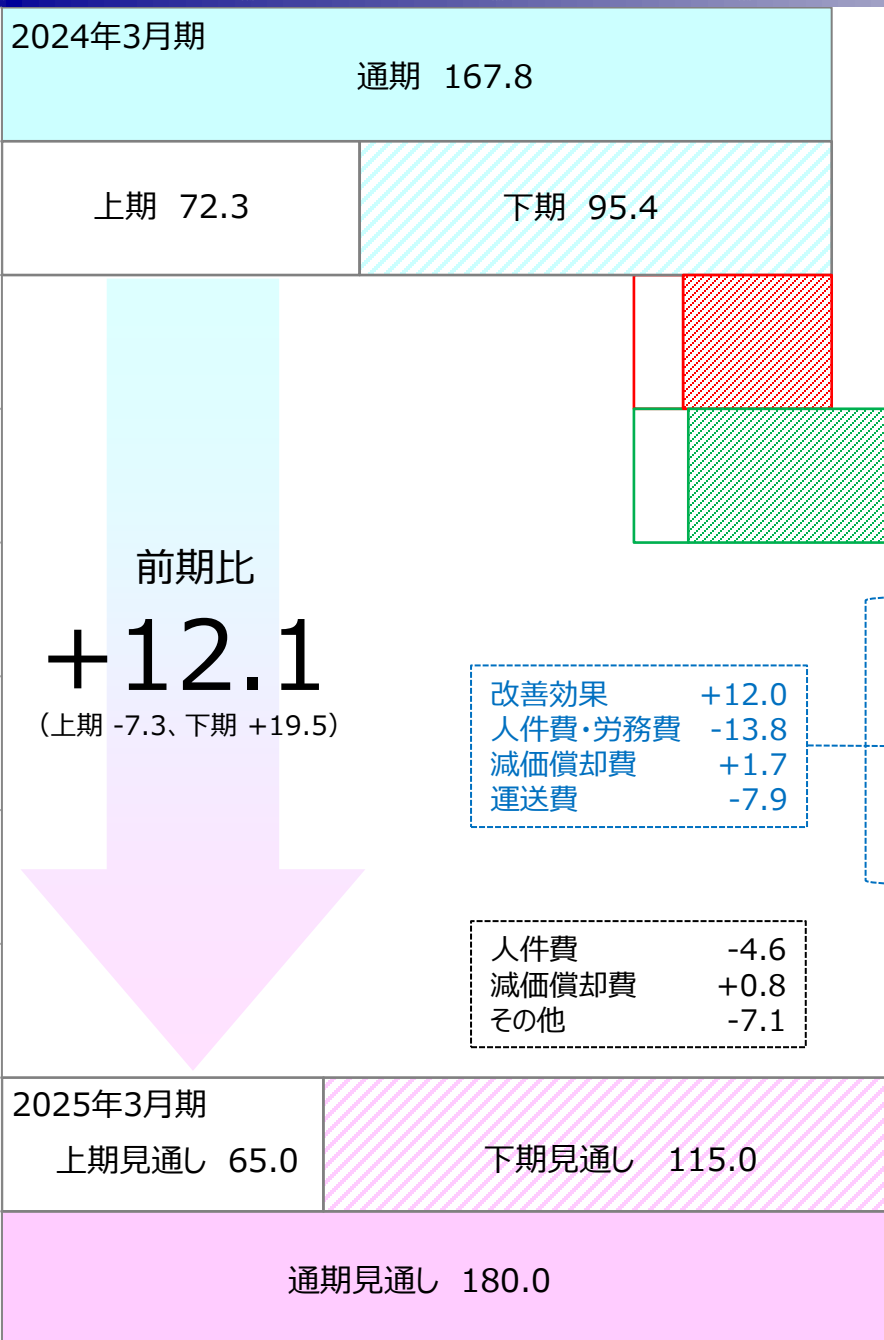
- 商品>**
- ・当社グループのインフラを活用した効率化提案
 - ・アベックスのM&A効果

■ 計画前年比

	上期 計画	下期 計画	通期 計画
製品売上高	103.8%	105.7%	104.8%
製品枚数	105.0%	100.0%	102.5%
経常利益	89.8%	120.5%	107.3%
経常利益率	5.6%	9.6%	7.6%

経常利益 利益増減 見通し (2025年3月期)

単位：億円



- 原料価格** **-40.0**
(上期 -10.0、下期 -30.0)
- 販売活動** **+71.0**
※製品販売価格改定の影響含む
(上期 +11.0、下期 +60.0)
- 生産** **-2.0**
(上期 +3.0、下期 -5.0)
- 物流** **-10.0**
(上期 -6.0、下期 -4.0)
- グループ会社** **+4.0**
(上期 +3.0、下期 +1.0)
- 経費** **-10.9**
(上期 -8.3、下期 -2.5)

製品価格改定を実施

- ・電力料金の高止まり
- ・川上メーカーのユーティリティコスト転嫁を含む原料価格の値上がり
- ・労務費の上昇や2024年問題を背景とした物流費の増加

設備投資・研究開発費 計画 (2025年3月期 計画)

単位:百万円	通期 実績	通期 計画			上期 計画		
	2024年3月期 実績	2025年3月期			2025年3月期		
		計画	増減	前年比	計画	増減	前年比
有形固定資産	9,098	14,500	+5,401	159.4%	7,400	+4,094	223.9%
無形固定資産	493	500	+6	101.3%	100	△74	57.3%
設備投資	9,591	15,000	+5,408	156.4%	7,500	+4,020	215.5%
減価償却費	15,052	14,800	△252	98.3%	7,450	△130	98.3%
研究開発費	1,483	1,610	+127	108.5%	803	+163	125.4%

【主な設備投資】

単位:百万円 投資総額 2025年3月期 計画

オリジナル製品への投資：エコAPET製品の生産能力・品質向上

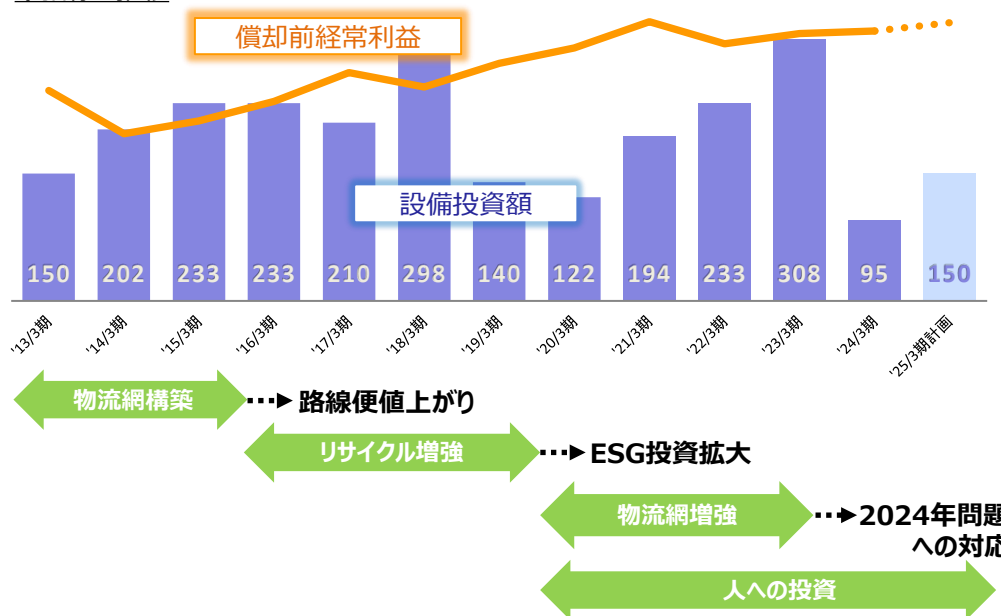
◆ エコAPET原料 生産性向上(関東・中部)	780	780
◆ エコAPET原料 生産能力増強(NPR)	899	899
◆ エコAPET製品 生産能力増強	973	973

販売量拡大への投資：安定供給・効率改善・働く環境整備

◆ 自動化設備の導入			429	890
◆ 従来素材製品能力増強				
◆ 関西選別センター	2024年	9月 完成予定	944	753
◆ グループ会社生産拠点の増強 ダンボール工場増床	2024年	8月 完成予定	3,527	1,473
◆ 金型				1,872
◆ IT投資				525

◇指標の推移

単位:億円



企業価値拡大に向けて

代表取締役会長 兼 エフピコグループ代表
佐藤 守正

目次

01. 外部環境

02. エフピコの競争優位性

- ▶ 製品開発
- ▶ エコ戦略
- ▶ 安定供給
- ▶ M&A

03. 成長戦略/財務戦略

04. 新OPPシートの開発

01. 外部環境

02. エフピコの競争優位性

- ▶ 製品開発
- ▶ エコ戦略
- ▶ 安定供給
- ▶ M&A

03. 成長戦略/財務戦略

04. 新OPPシートの開発

製品価格改定

2024年4月吉日

お取引先各位

株式会社エフピコ

価格改定のお願い

謹啓 貴社ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素はひとかたならぬご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、弊社は2021年10月、2022年4月に相次いで「価格改定のお願い」を発表し、弊社製造製品について価格改定を実施させていただきましたが、その後、電力料金が急騰し、過去に例のない水準で高止まっております。また、原油価格の動向や円安の更なる進行により国産ナフサ及びベンゼンも高値圏で推移し、川上メーカーによるユーティリティコストの転嫁も含めて、弊社グループ製品主要原料であるポリスチレンをはじめとする原料全般の値上がりも続いております。さらに、労務費や物流の2024年問題を背景とした物流費等も増加しております。

このような状況下、弊社といたしましては使用済み容器など回収原料の調達量拡大に加え、生産部門における自動化、物流部門における積載効率改善、製品アイテム数の適正化などあらゆる部門で合理化の取り組みを実施しておりますが、大幅な電力料金や原料価格の高騰を自助努力で吸収することが極めて困難な状況にあります。

つきましては、誠に不本意ではございますが、下記のとおり弊社製品の価格改定実施をお願いしたく、何卒事情ご賢察の上、ご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

謹白

記

1. 対象品目・価格改定幅

弊社製造製品全般 : 15%以上

2. 実施時期

2024年7月1日出荷分より

価格改定の詳細につきましては、弊社営業担当者がお伺いした上でご説明申し上げます。

以上

2024年4月30日 リリース

1. 対象品目・価格改定幅

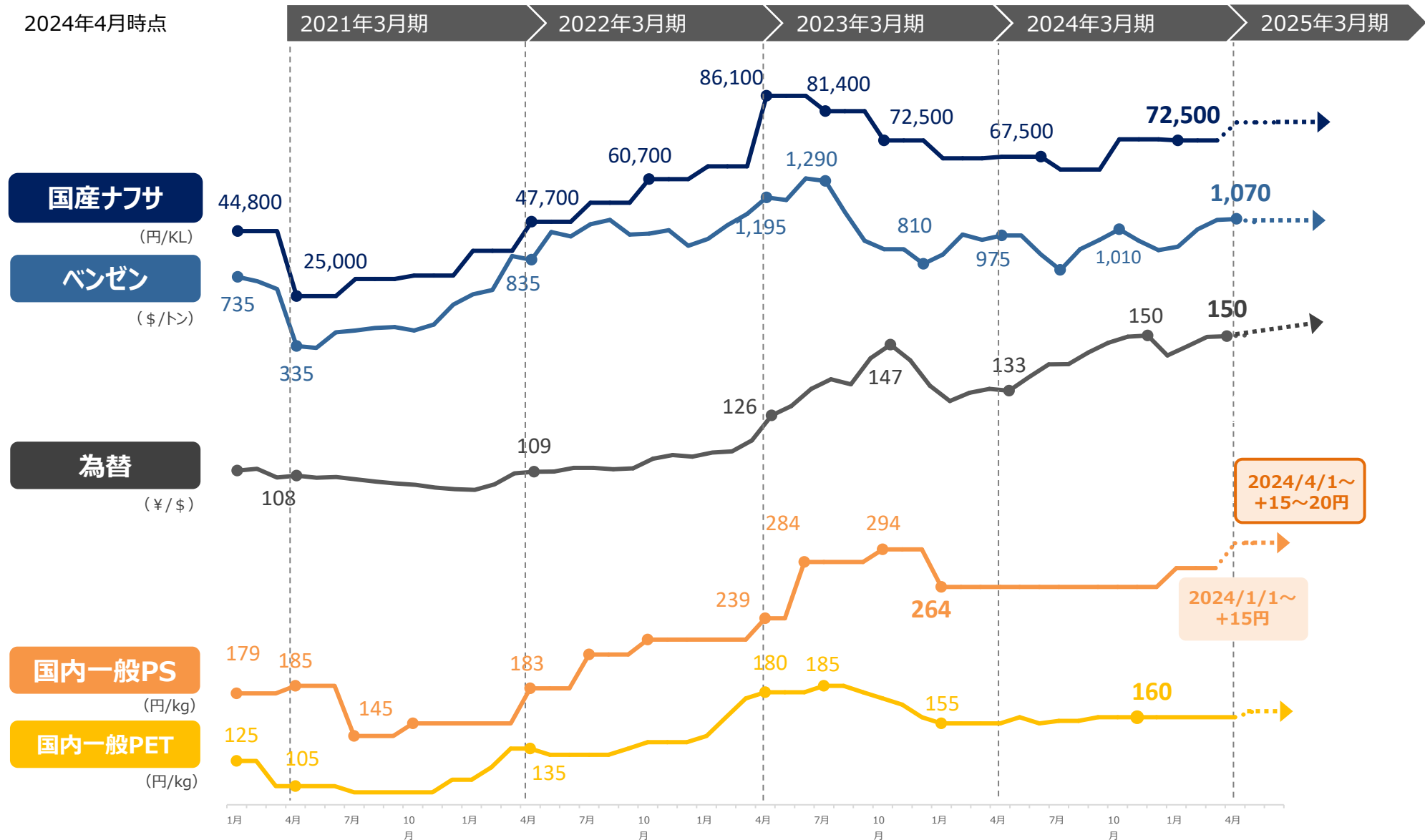
弊社製造製品全般 : 15%以上

2. 実施時期

2024年7月1日出荷分より

原料価格の高騰

2024年4月時点



価格改定の状況と電力価格の高騰

製品価格改定

2021/10/29発表
12/1出荷分より 10%以上

第一次
発表

見積
提示

2022/4~
完全実施

製品価格改定

2022/4/28発表
6/1出荷分より 15%以上

第二次
発表

見積
提示

2022/10~
完全実施

製品価格改定

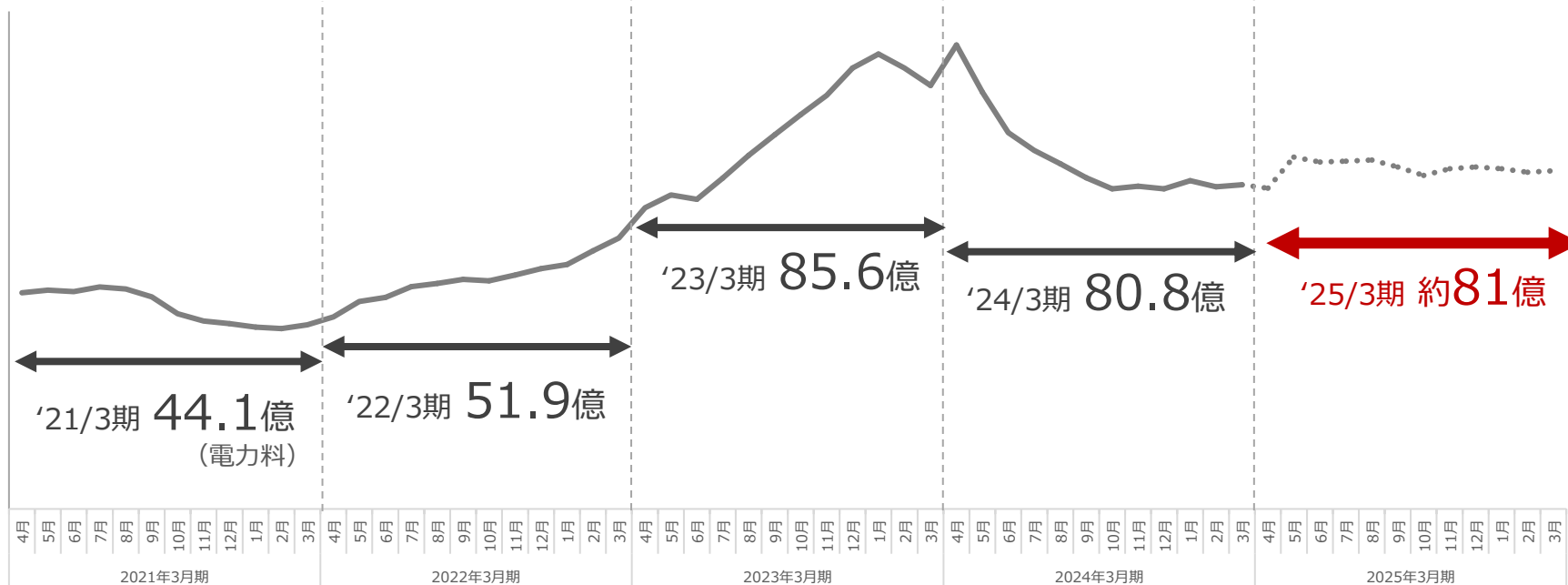
2024/4/30 発表
7/1出荷分より 15%以上

第三次
発表

見積
提示

2024/7~
実施

● 電力単価推移



01. 外部環境

02. エフピコの競争優位性

- ▶ **製品開発**
- ▶ **エコ戦略**
- ▶ **安定供給**
- ▶ **M&A**

03. 成長戦略/財務戦略

04. 新OPPシートの開発

自動化・機械化への対応 ～機械との親和性が重要なファクター～

人手不足 により自動化・機械化が急加速

【惣菜PC (プロセスセンター) の一般的な製造工程】

容器供給

盛付け

蓋閉め・トップシール

ラベル貼り

コンテナ収納・輸送

自動容器供給機

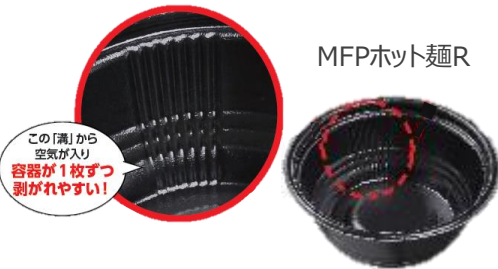


まとめてセットされた容器から一枚ずつ供給

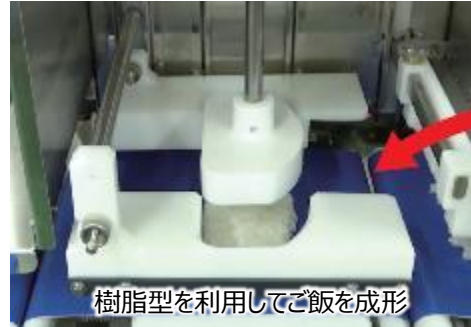
- 多様な容器サイズ・形状に対応
- 複数の装置 (充填機等) との連動が可能

提案

剥離性のある容器



自動飯盛り機



樹脂型を利用してご飯を成形

- ライン人員 最大3名削減
- 多様な形状の容器に盛付け可能

提案

PC供給もインスタも統一できる容器



MSDレイア

自動蓋閉め機・トップシール機

【自動蓋閉め機】

吸盤で蓋を供給・被せ・嵌合する

- はめ込む際の正確な位置決め
- パチッと嵌合する絶妙な押し込み



提案

変形しにくい強度のある容器



APデリオ

【トップシール機】



提案

トップシールと蓋を併用できる内嵌合容器



AP-TS丸

新技術① プラスチック使用量削減（低発泡化容器）

低発泡PSPシート × 成形技術 による 「新低発泡PSP容器」

非発泡容器（HIPS）と比較して

プラスチック使用量を最大約**60%**削減



祝賀桶PT



プラスチック使用量（HI製品本体比）

約**60%**削減

氷河桶PT



約**60%**削減

涼角



約**40%**削減

麗角



約**50%**削減

今後も 低発泡化容器のシリーズ展開を進める

プラスチック使用量削減によるユーザーのコスト削減

容器包装リサイクル法の委託金を低減

1kgあたりの委託金単価
(小売)

2023年度
31.20円



2024年度
34.12円

委託金単価
前年比109%に上昇



- 約108万枚使用の場合 (2024年度試算,2023年度比)

非発泡容器の場合

委託金単価上昇により

年間**12万円** のコスト増加

プラスチック使用量削減容器の場合

委託金単価が上昇しても

年間**83万円** のコスト削減

祝賀桶・氷河桶 前年比 上期**99%**、下期**146%** 〔2024年3月期 HIPS含む〕

新技術② プラスチック使用量削減容器（耐寒容器）

新素材「耐寒PPiP-タルク™」を開発

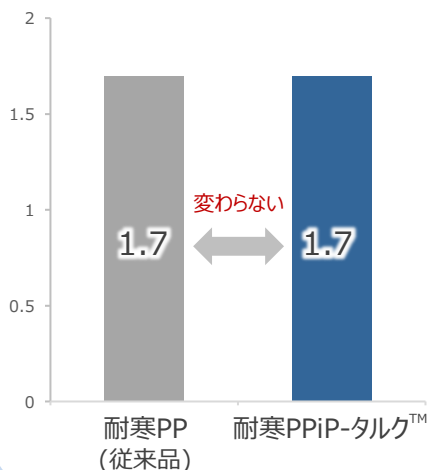
2種類の無機物を均一に分散配合することで、
従来品の耐寒PPと比較して**耐寒衝撃性、天地圧縮強度、重量**が変わらず、**同等の原価**で



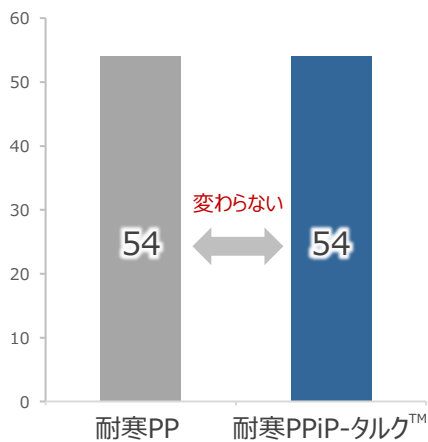
FTデリプレ角

プラスチック使用量を25%以上削減

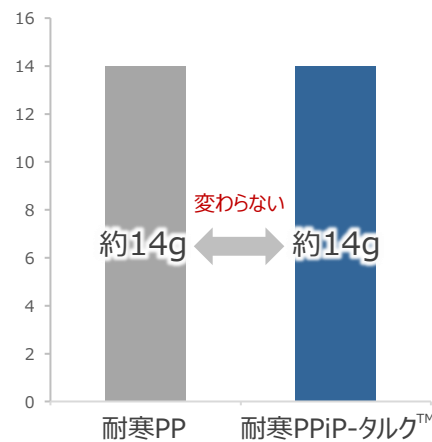
耐寒衝撃性(J)



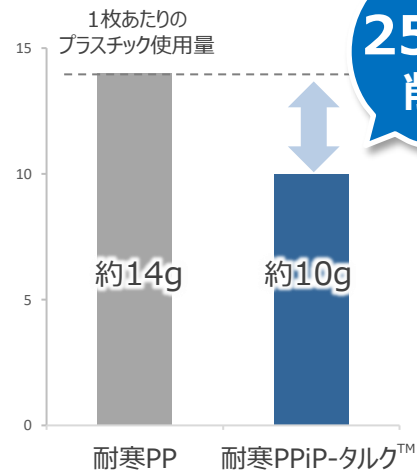
天地圧縮強度(N)



重量(g)



プラスチック使用量(g)



新技術③ 高光沢化容器

マルチFPの高光沢化

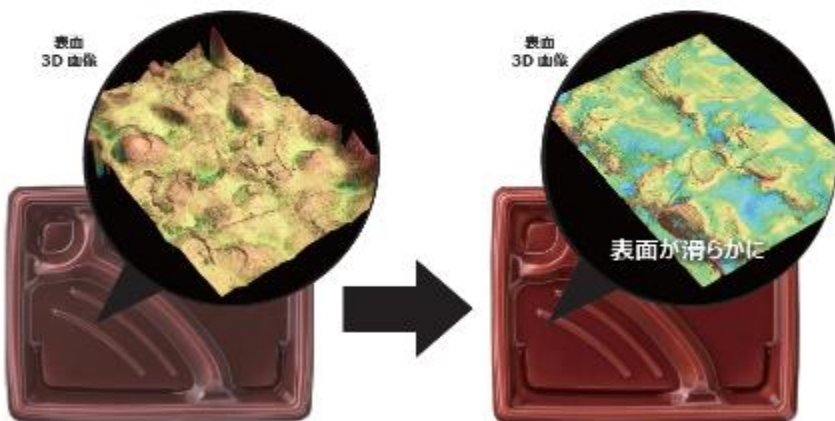


MFPEモダン

マルチFP原反の平滑性があり

光沢度
40%アップ

シート研究で
光沢度 **40%アップ** 特許申請中



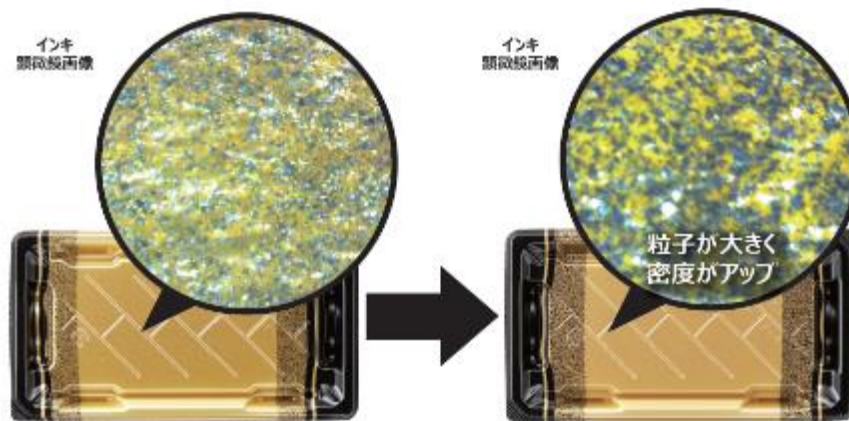
金インキの高光沢化



金インキの粒子を再研究して

光沢度
10%アップ

インキ研究で
光沢度 **10%アップ** エフピコ初



ユーザーのオペレーションコスト低減

ツマ削減容器

● 出荷実績推移（数量ベース）



Sステージ



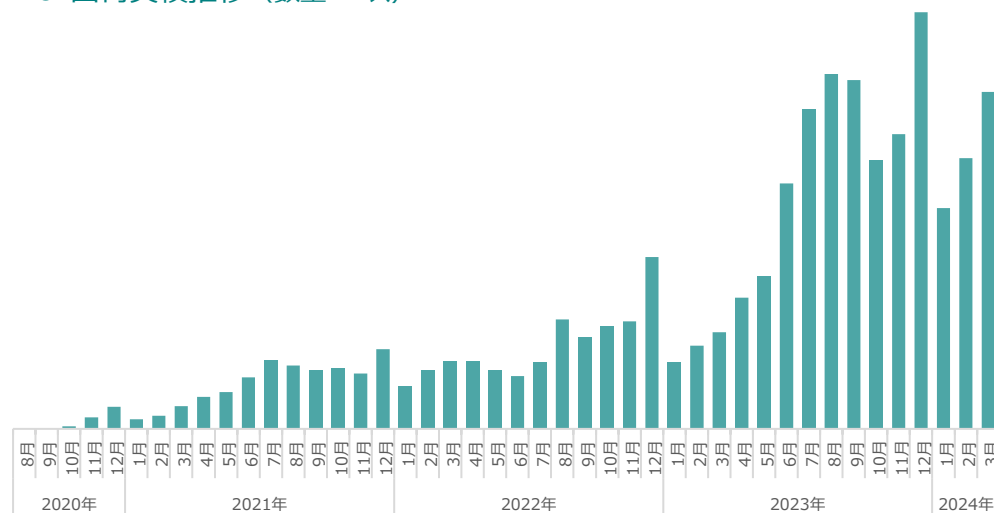
長角鉢TZ

ツマあり

80g

ツマなし

0g



① 盛付け時間の短縮



刺身の加工時間/日

8MH → 6MH

月間約**800**万円の削減

※関西A社様事例(160店舗)

※MH(人時生産性)：仕事を1人で全て行ったと仮定した場合の作業時間

② ツマ代の削減



月間約**600**万円の削減

※関西A社様事例(160店舗)

③ 食品ロスの削減



ツマは別売りで対応

01. 外部環境

02. エフピコの競争優位性

- ▶ 製品開発
- ▶ **エコ戦略**
- ▶ 安定供給
- ▶ M&A

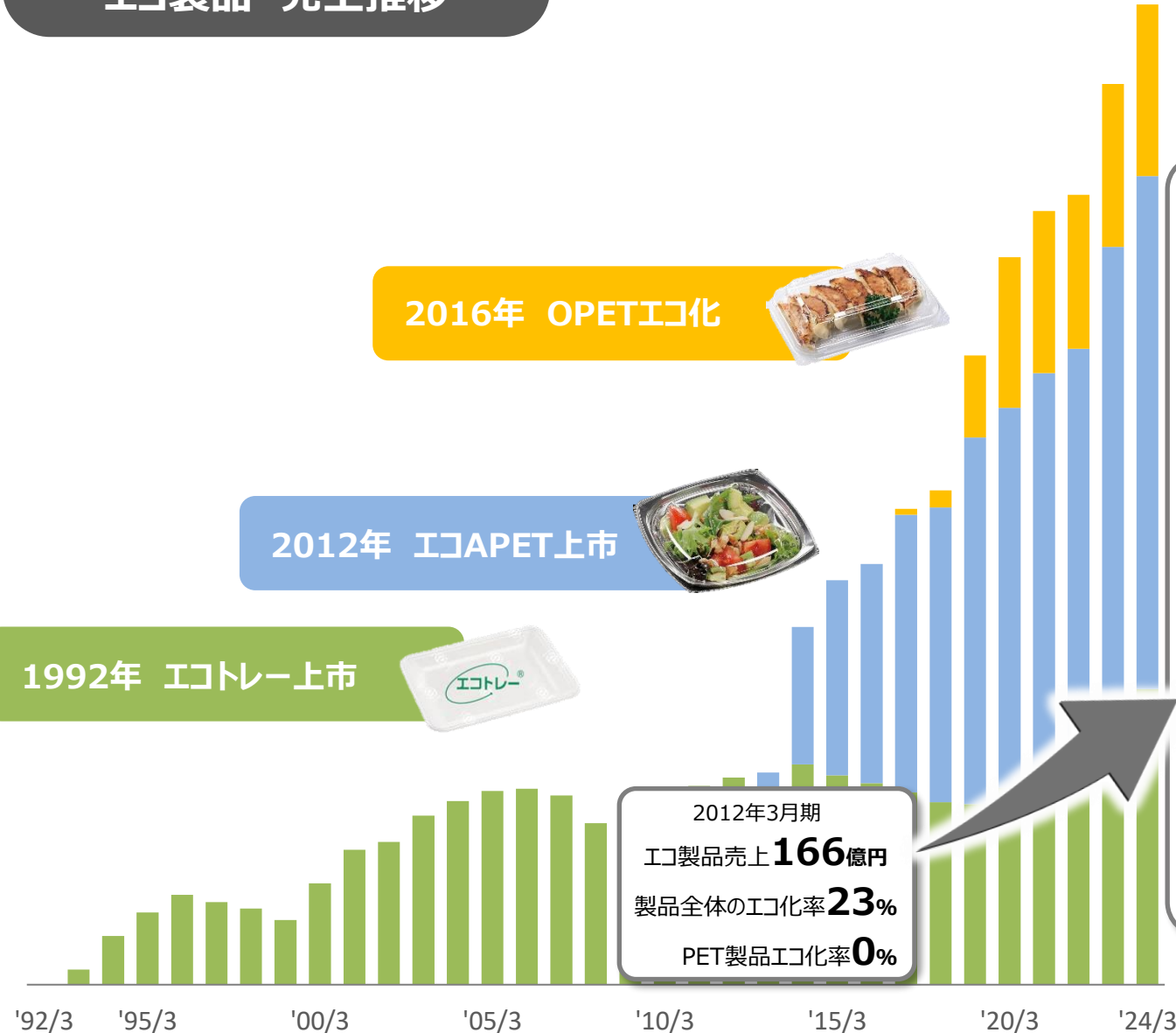
03. 成長戦略/財務戦略

04. 新OPPシートの開発

エコ製品の販売実績



エコ製品 売上推移



2016年 OPETエコ化

2012年 エコAPET上市

1992年 エコトレー上市

2012年3月期
エコ製品売上 **166**億円
製品全体のエコ化率 **23**%
PET製品エコ化率 **0**%

2024年3月期
エコ製品売上

788億円

製品全体のエコ化率
枚数ベース

48%

PET製品エコ化率

100%

エコ製品によるCO2排出量の削減



2024年3月期 CO2排出削減貢献量 **18.6万トン**

エコトレー



CO2削減効果

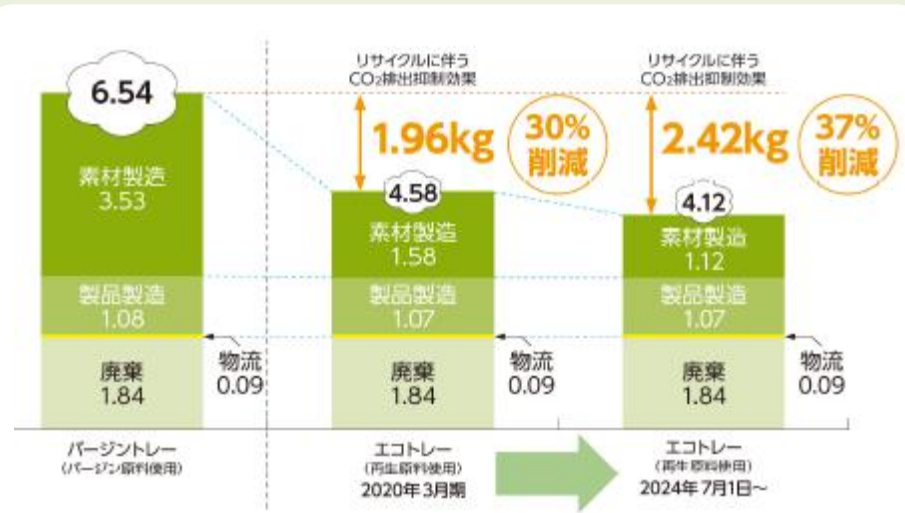
30%

2024年7月1日出荷分～

37%

太陽光発電稼働時期

2022年 3月 関東リサイクル工場
2022年10月 中部リサイクル工場
2024年 3月 福山リサイクル工場

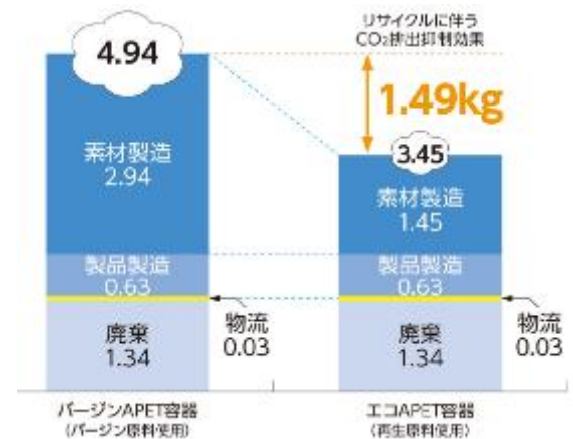


エコAPET・OPET容器



CO2削減効果

30%



お店を発着点とした「ストアtoストア」



お店で使用・販売した食品トレー・ペットボトル は
そのお店で資源として回収し、食品トレー・透明容器に再生して、
また そのお店で積極的に使用する



水平リサイクル促進に向けたユーザーとの協働



2022年

2023年

2024年

11月 中国シジシー様

(2023年度目標)

CO2削減量

902 トン

▶ **1,000** トン

トレ回収量

324 トン

▶ **450** トン

ペットボトル回収量

214 トン

▶ **1,150** トン

10月 エブライ様

(2024年6月期目標)

CO2削減量

691 トン

▶ **750** トン

トレ回収量

142 トン

▶ **150** トン

ペットボトル回収量

266 トン

▶ **300** トン

11月 九州シジシー様

(2024年度目標)

CO2削減量

1,130 トン

▶ **1,300** トン

3月 東北シジシー様

(2024年度目標)

CO2削減量

2,987 トン

▶ **3,600** トン

ユーザー自身が環境目標を設定し
主体的に水平リサイクルに
取り組む動きが広がる



水平リサイクル促進に向けたユーザーとの協働

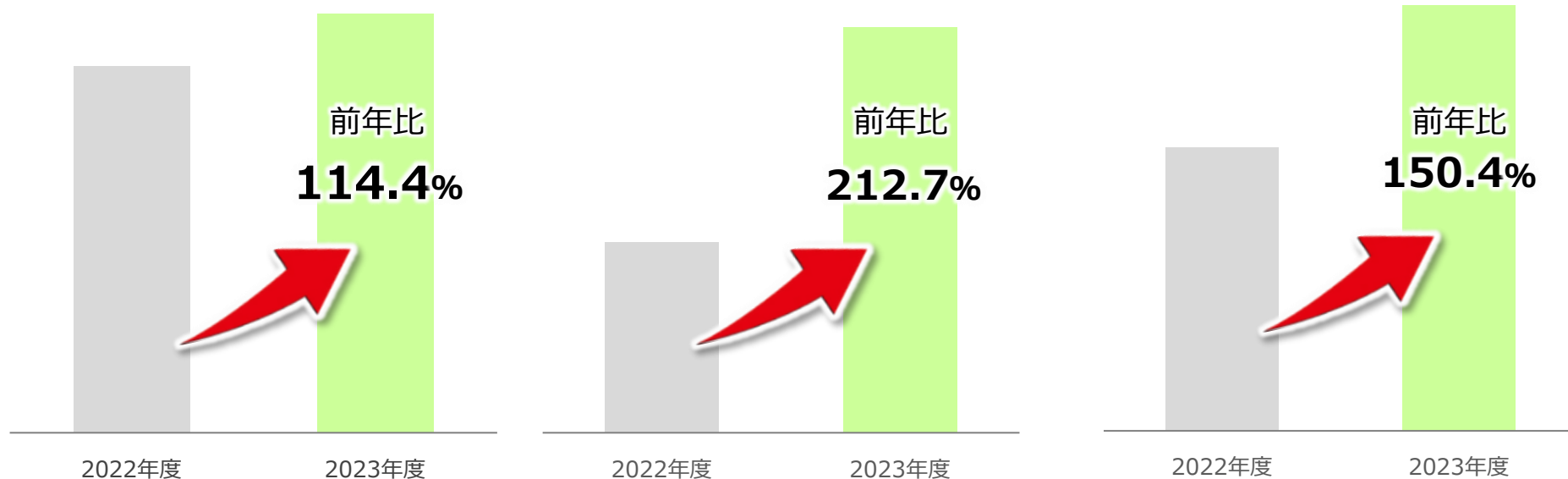


● 中国シジシー加盟店 フレスタ様における実績

【トレー回収量】

【ペットボトル回収量】

【CO2削減量】



中国シジシー様 CO2削減量

2021年度 実績：902トン



2023年度 目標：1,000トン

実績：1,157トン〔2021年度比 128%〕



ポリスチレンの完全循環に向けて



回収・ペレット化

各種リサイクル手法

再利用



マテリアル
リサイクル



1990年 回収開始
1992年 エコトレー上市

マテリアル
リサイクル

黒色のプラスチック成形品



溶解分離
リサイクル
(Dic法)



2025年よりエコトレー
30%増加
DIC四日市工場
2024年11月稼働予定

ケミカル
リサイクル
(モノマー還元)



2026年実装
に向けて研究中

「ポリスチレンの完全循環」を目指して研究中

エコ化率50%超へ

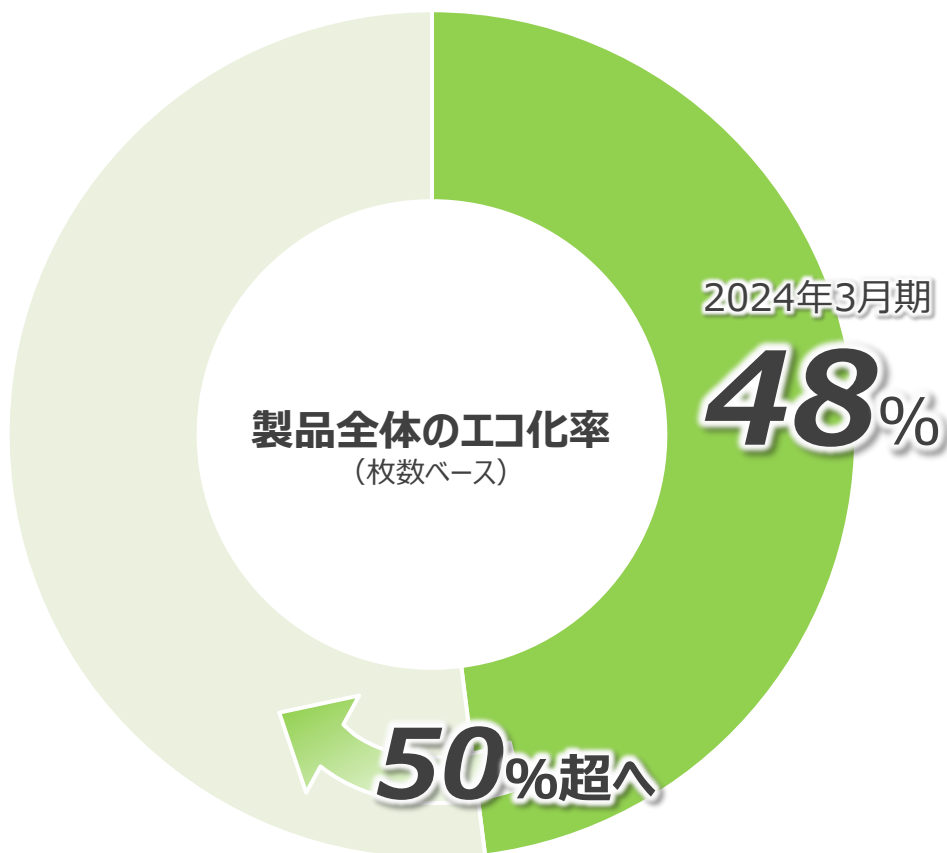


エコ化率拡大による成長

シェア拡大



収益性の改善



PSP

DIC四日市工場において
溶解分離リサイクル 2024年11月稼働予定



カラートレーのリサイクルが可能

販売ケース数
約**30%**増加

PET

再生原料の生産能力増強



生産能力
6.5万トン ▶ **7.5万トン**
(2026年3月期見込み)

01. 外部環境

02. エフピコの競争優位性

- ▶ 製品開発
- ▶ エコ戦略
- ▶ **安定供給**
- ▶ M&A

03. 成長戦略/財務戦略

04. 新OPPシートの開発

物流の2024年問題

2024年4月1日

「自動車運転者の労働時間等の改善のための基準」(改善基準告示) が適用

トラックドライバーの長時間・過重労働が課題となり、労働条件の向上を図る



長距離になるほど車両の確保が困難

物流コストの増加

長距離・追加運行のコスト増加



通常運賃



追加運賃

年末繁忙期（12月）の車両コスト

	1) 販売配送		
	車両台数	オーバーコスト	
	(台)	(千円)	1台あたり (円/台)
2022年 12月	15,750	30,500	1,937
2023年 12月	16,150	31,400	1,944
増減	+400	+900	+8
前年比	102.5%	103.0%	100.4%

	2) 横持輸送		
	車両台数	オーバーコスト	
	(台)	(千円)	1台あたり (円/台)
	3,300	11,200	3,394
	3,700	38,000	10,270
	+400	+26,800	+6,876
	112.1%	339.3%	302.6%

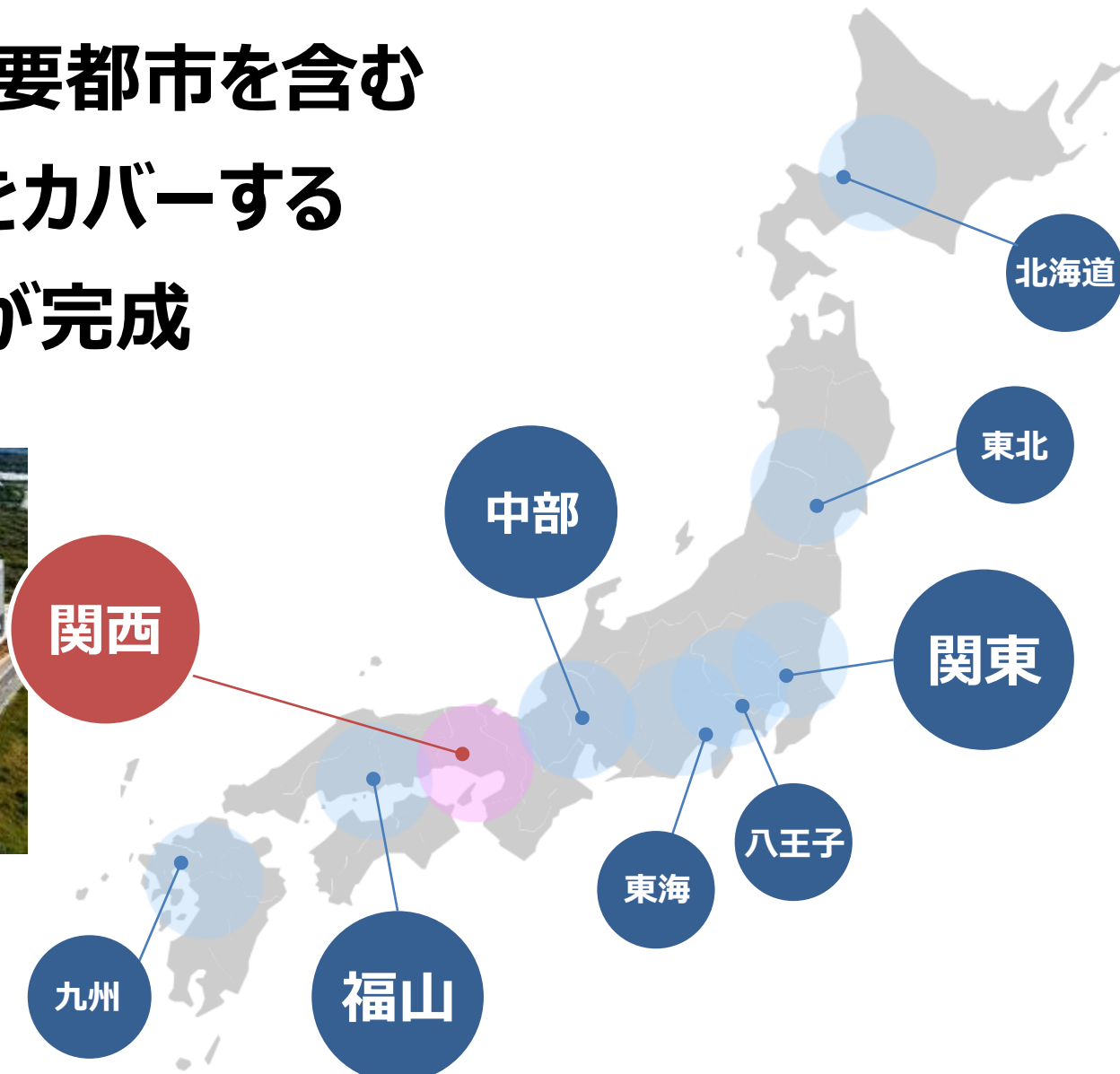
全国をカバーする物流ネットワーク

半径100kmで主要都市を含む
全人口の85%をカバーする
ネットワークが完成



関西工場・関西ハブセンター

稼働時期：2023年1月
投資額：266億70百万円
延床面積：79,883.65㎡



2024年問題への対応①

拘束時間 **13時間以内**

2023年1月 関西ハブセンター稼働

	2022年 11月	2024年 3月
福山ハブセンター	34台	0台
関西ハブセンター	—	0台
合計	34台	0台

福山ハブセンターから関西エリアへの
長距離運行がなくなり、

13時間超が減少

荷待ち、積込み時間等 **2時間以内**

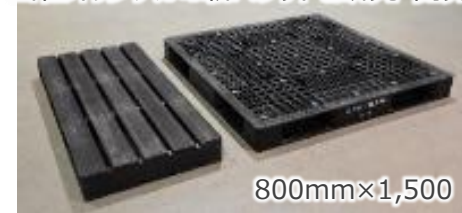
ソーター・専用パレットの活用、出荷・入荷の場所を集約

	2023年 9月	2024年 3月
1日の稼働台数	680台	680台
内、2時間超の台数	230台	27台

ソーター・専用パレットの活用、
手作業でなくフォークリフトで積み荷をすることで

2時間超が減少

当社オリジナルの新パレットを研究・開発



2024年問題への対応②

サプライチェーン・マネジメントシステム

SCM × 全国に整備された拠点網

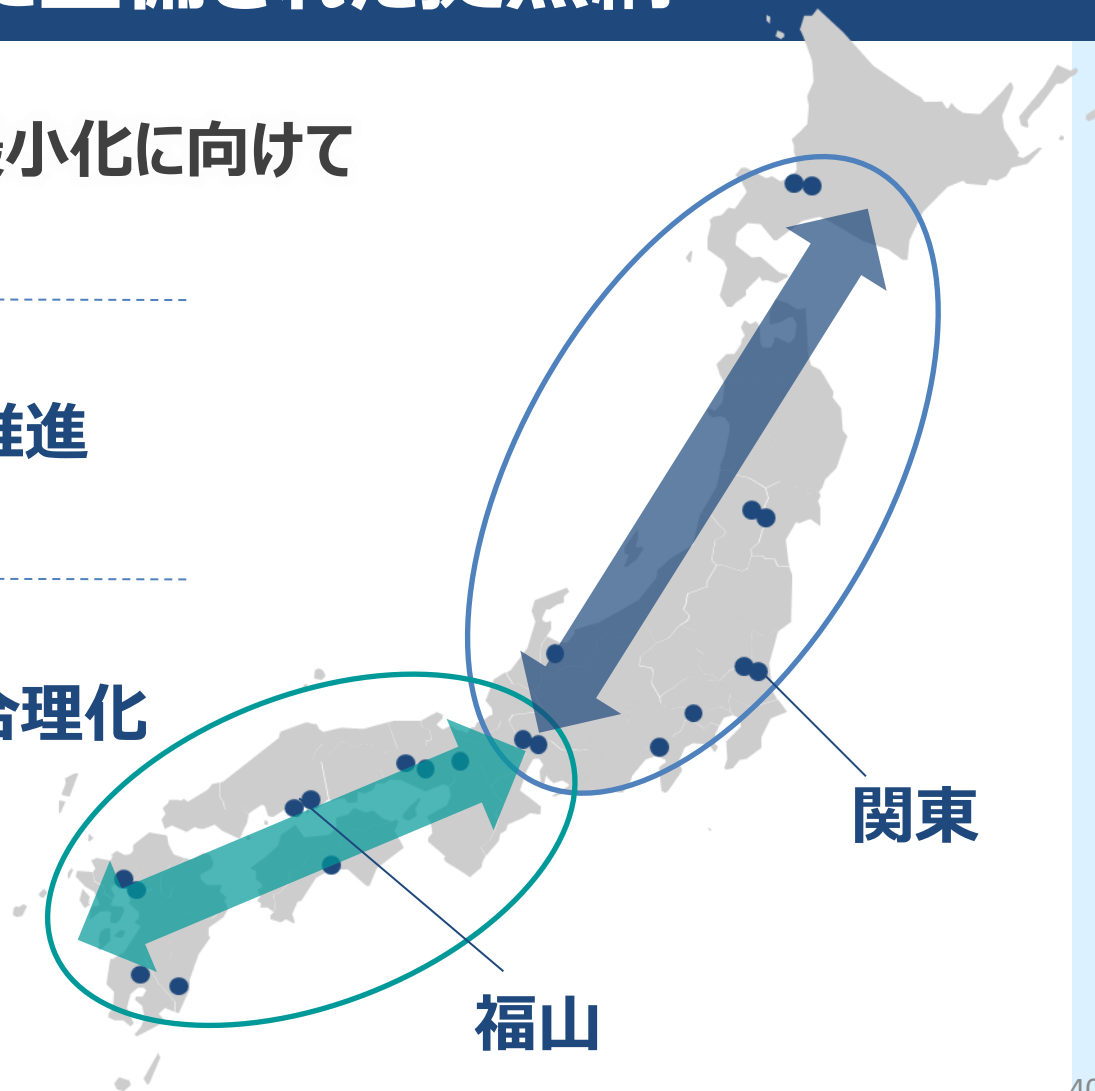
関東・福山間の製品移動の最小化に向けて

生産

需要に応じた現地生産をさらに推進

横持

東西でエリアを分断して横持の合理化



人材の確保・定着に向けた投資① 自動化・省力化



単純なモノの移動の省人化

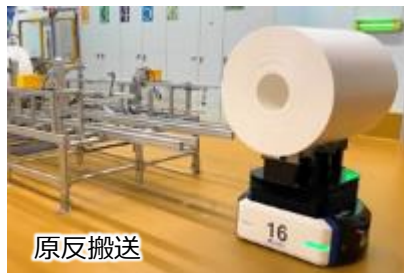
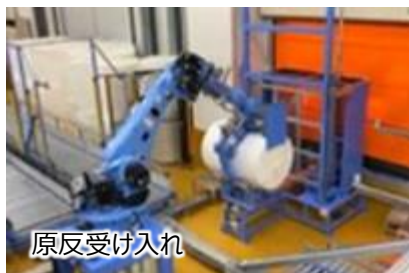
重労働の軽作業化



頻度の高い作業の省人化



生産部門



物流部門



- AGV : 33台 ('24/3期)
- AGF : 6台 ('24/3期)
- ソーター : 5センターに導入

自動化設備導入による効果

就労環境の改善

職域の拡大

付加価値業務への人員振替が可能

人材の確保・定着に向けた投資② 待遇改善

2019年3月期 退職金制度の拡充

2021年3月期 給与水準向上（深夜労働手当等の改定）

2024年3月期

- ・ 給与水準平均10.7%の大幅な改定
- ・ 初任給の引き上げ
- ・ 休日日数の増加

✓ 製造・物流会社における離職者数が**63名減少**

(2023/3期 221名 → 2024/3期 158名)
※自己都合のみ、2023年4月～2024年3月までの実績

✓ ワークライフバランスの充実

01. 外部環境

02. エフピコの競争優位性

- ▶ 製品開発
- ▶ エコ戦略
- ▶ 安定供給
- ▶ **M&A**

03. 成長戦略/財務戦略

04. 新OPPシートの開発

アペックス グループ会社化

株式会社アペックス

九州地区における売上高100億円の
食品包装資材問屋

2018年11月 持分法適用関連会社化



2023年 9月 グループ会社化



問屋標準基幹システム

全国のディーラー
6社導入済み、1社導入中

製商品の ピッキングインフラ

包装資材のECサイト 「パックマーケット」

エフピコ商事のMD

アイテム選定、在庫集約
PB商品の充実

エフピコグループのインフラを活用して
競争力を強化



問屋様によるFPインフラ活用① “ラストワンマイルを問屋様物流網で”

エフピコ

製品



商品



最小ロットでお届け

問屋様

店別・部門別に
袋単位でピッキング



ユーザー



問屋様メリット

ピッキング作業
軽減
(人手不足対応)

在庫費用
圧縮

在庫滞留
リスク軽減

スペース確保による
生産性向上

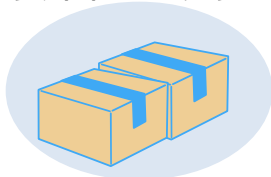
欠品リスク軽減

MBS × 問屋物流網

ミックスバラシステム

エフピコ

容器を店別・部門別に
袋単位でピッキング



問屋様

FPがピッキング
した容器



問屋様がピッキング
した資材消耗品



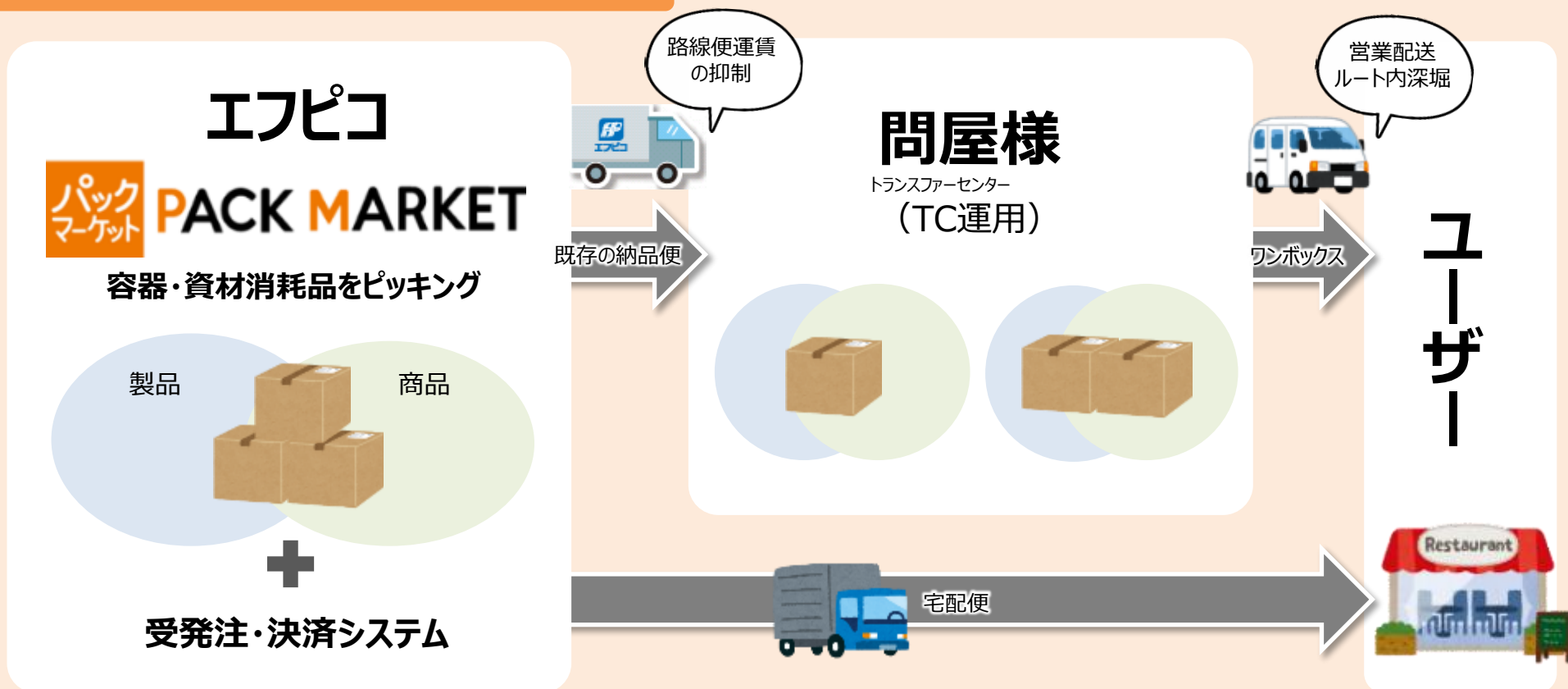
ユーザー



問屋様によるFPインフラ活用② 新マーケットへの進出

従来アプローチできなかった飲食店等の小口マーケットの拡大

パックマーケット × 問屋物流網



LSSPI社 取り組み状況

Lee Soon Seng Plastic Industries Sdn. Bhd.

取得総額：約167億円（当社取得額：約67億円）

持分比率：三井物産 60%、エフピコ 40%

株式取得日：2022年8月31日



ステップ1

3か年計画「2倍の生産性へ」

- ▶ エフピコのノウハウによって、成形スピードアップ
- ▶ 自動化、省人化の推進

ステップ2

マレーシア・シンガポールで 圧倒的シェア獲得

ステップ3

さらに拡大が期待される 東南アジア市場の礎へ

01. 外部環境

02. エフピコの競争優位性

- ▶ 製品開発
- ▶ エコ戦略
- ▶ 安定供給
- ▶ M&A

03. 成長戦略/財務戦略

04. 新OPPシートの開発

本日お伝えしたいこと

中長期目標

2030/3期までに売上高3,000億円、経常利益300億円、ROEは11%への改善を目指します

長期的には過去最高13%の更新を目指します

Eco製品や低発泡化容器の拡大によって収益性の改善を図り、これまでに実施した先行投資による回収を進めます

財務戦略

物流ネットワークの整備により2024年問題への対応が間に合いました

既存事業の設備投資は一区切りとなりましたが、新たな成長分野への進出を目指し、研究を進めています

安定した営業キャッシュフローと資金調達を原資に、M&Aを含む投資と株主還元を戦略的に配分し、

キャッシュポジションによっては追加還元を検討します

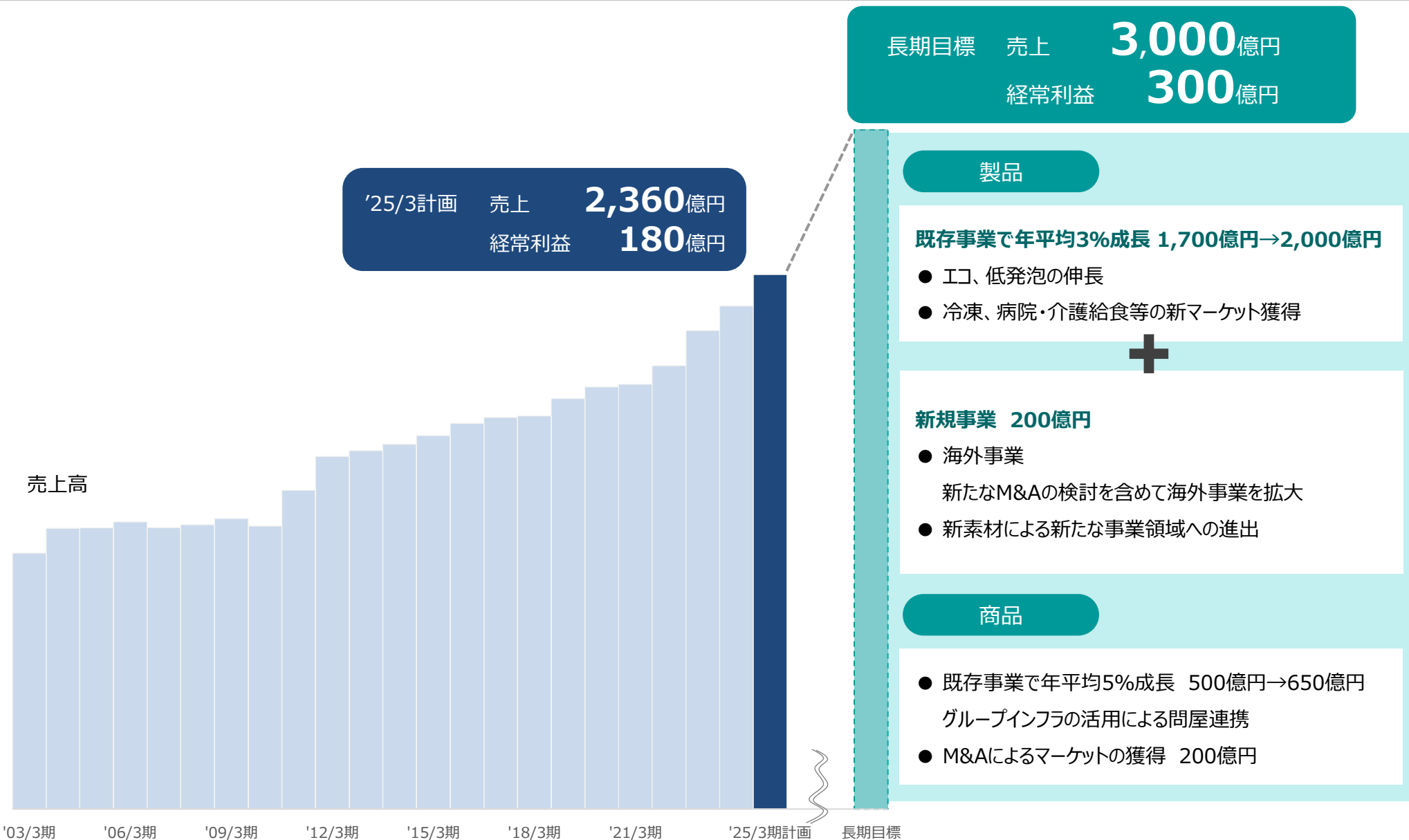
成長性

国内：人手不足を背景に需要の拡大が想定される冷凍食品や病院・介護給食市場での伸長を図ります

海外：新たなM&AやLSSPI社の出資比率の見直しも含めて海外戦略を推し進めます

代表取締役会長 兼 エフピコグループ代表
佐藤 守正

成長戦略



※2022年3月期より収益認識会計基準変更、2021年3月期のみ遡及適用

中長期目標

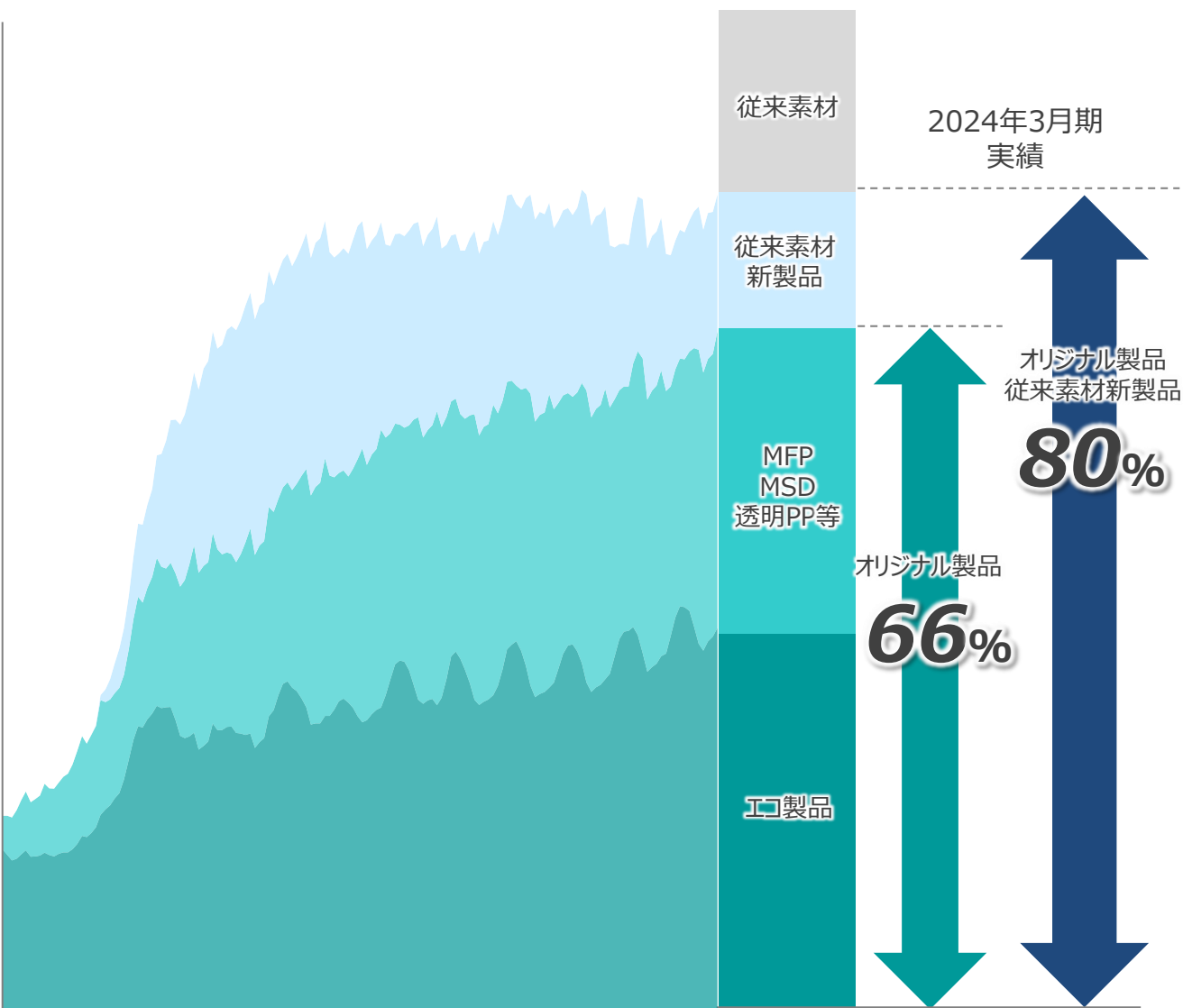
- 2030/3期までに売上高 3,000億円、経常利益 300億円
ROEは11%への改善を目指す
長期的には過去最高13%の更新を目指す
- 株主還元
配当性向30%から40%に変更、中長期的な利益成長に応じて増配を目指す
自社株買いはキャッシュポジションを勘案し実施を検討
- 先行投資による回収を進めて売上高の成長、利益率の改善を図る

(単位：億円)	2024/3期 実績	▶	2025/3期 計画	▶▶▶	2030/3期 目標
売上高	2,221		2,360		3,000
経常利益	168		180		300
経常利益率	7.5%		7.6%		10.0%
純利益	117		121		210
ROE	8.2%		8.4%※		11.0%
配当 (1株当たり)	57円 配当性向30%から40%に変更		57円 中長期的な利益成長に応じて増配を目指す		
自己株式の取得	30		機動的な自己株式取得を検討		

※株主資本の額は期初の数字を使用

オリジナル製品・新製品の拡大による収益性の改善

製品売上構成比



オリジナル製品+従来素材新製品
2030年3月期
目標 **85%**

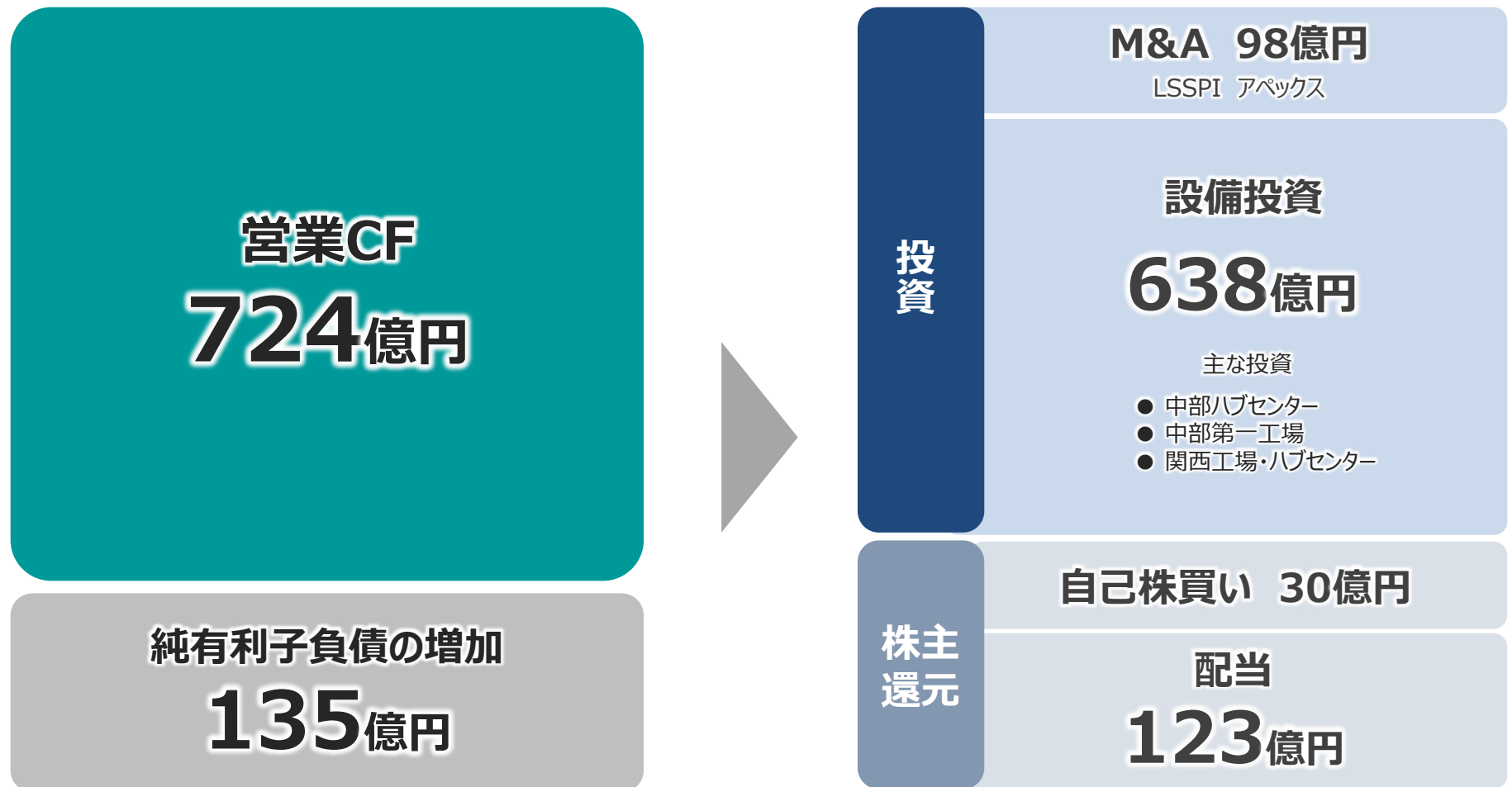
- 低発泡化容器のシリーズ展開
- 機能をもったオリジナル製品
- エコ製品の拡大
- 技術力を活かした製品の軽量化

従来素材は営業利益率10%
オリジナル製品・新製品はプラス3%

財務戦略 実績 (2022/3期～2024/3期)

- 営業キャッシュフローは、将来の成長や安定供給に向けた設備投資やM&A、株主還元に充当
- 財務安全性を考慮しつつ、借入金を活用

2022/3期～2024/3期 (3年間累計)



財務戦略 計画 (2025/3期～2027/3期)

● 営業キャッシュフローおよび資金調達を原資とし、投資・株主還元を戦略的に配分

2025/3期～2027/3期 (3年間累計)



株主還元

● 配当方針の変更

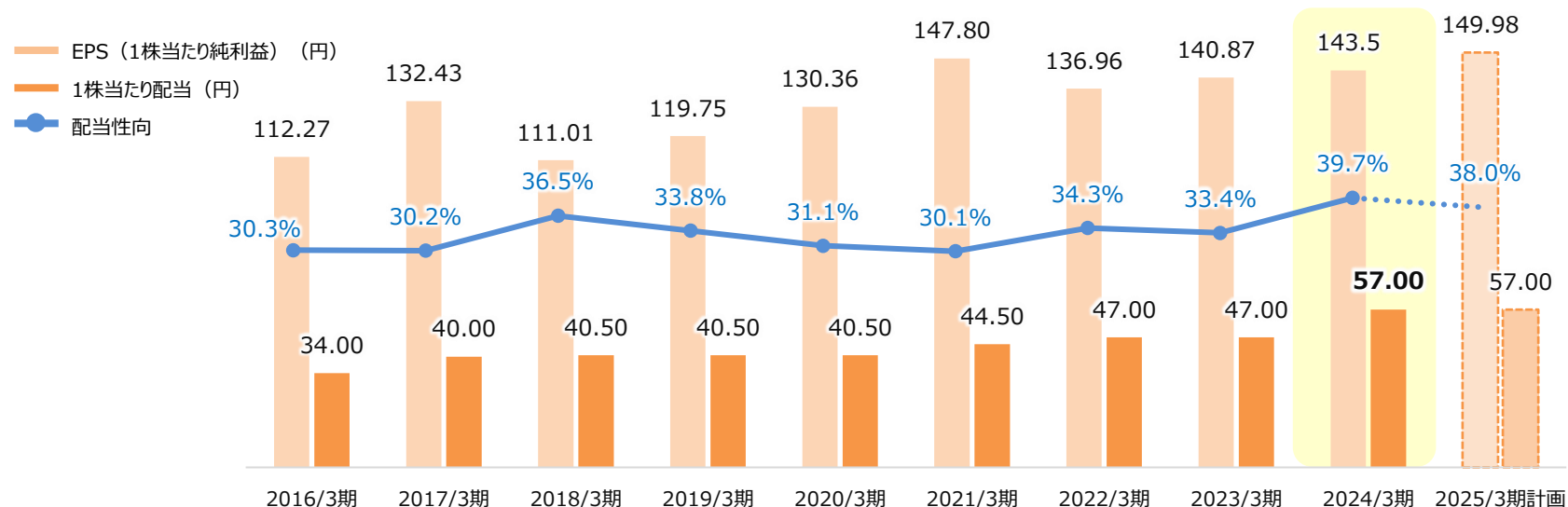
目途とする連結配当性向を **30%から40%に変更**、継続的かつ安定的に実施

▶ 1株当たりの配当は前期比10円増額の**57円に修正** (2024/3期)

● 自己株式の取得

財務の健全性を維持しつつ、戦略投資や株価水準等を勘案し、機動的・柔軟な還元を検討

▶ 株主還元の充実および資本効率の向上を図るため、**30億円実施** (2024年2月)



(単位: 億円)	2016/3期	2017/3期	2018/3期	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期	2024/3期
配当	28	33	33	33	33	37	38	38	46
自己株式の取得	-	-	-	-	-	40	-	-	30
合計	28	33	33	33	33	77	38	38	76
総還元性向	30.3%	30.2%	36.5%	33.8%	31.1%	62.7%	34.3%	33.4%	65.1%

01. 外部環境

02. エフピコの競争優位性

- ▶ 製品開発
- ▶ エコ戦略
- ▶ 安定供給
- ▶ M&A

03. 成長戦略/財務戦略

04. 新OPPシートの開発

世界初の新シートを開発①

エピコ独自の 新OPP (2軸延伸ポリプロピレンシート) の開発に成功

一般的な
OPP

- 厚さ：30～50ミクロン
- 用途：食品用軟包装資材 等



単層
シート

新OPP (超高剛性2軸延伸ポリプロピレンシート)

- 厚さ：150～300ミクロン
- 用途：(食品容器) 既存の素材から切替
(産業分野) 自動車部品、耐薬品性家電部品等を想定



新OPP透明容器サンプル

エピコ独自
新OPP

新OPP積層シート

- 厚さ：1～3ミリ
- 用途：(産業分野) 自動車部品、住設、太陽電池、物流資材等を想定

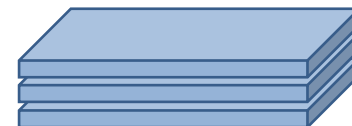
積層
シート

※イメージ

単層



積層



世界初の新シートを開発②

食品容器における新OPPの優位性

透明容器の素材比較

		新OPP (2軸延伸PP)	OPS (2軸延伸PS)	APET (無延伸PET)	OPET (2軸延伸PET)	透明PP (無延伸PP)
透明性		○	○	○	○	△
耐熱性		110℃	80℃	60℃	80℃	110℃
耐寒性	-18℃	○	△	×	○	×
	-30℃	○	△	×	○	×
同強度時の 容器重量	○軽い ×重い	○	△	×	△	×
耐油性		○	×	○	○	○

世界初の新シートを開発③

新OPP積層シート 10の特徴

1. 賦形性

OPPシートとして高い成形性

2. 透明性

一般透明PPよりも高い透明性

3. 加飾性

印刷によるデザインの付加が可能

4. 高剛性

変形に対する強度

5. 高靱性

割れにくく粘り強い

6. 耐寒性

-40℃に対応

7. 耐薬品性

薬品に対して高い耐性

8. リサイクル性

PPとしてマテリアルリサイクルが可能

9. 低線膨張

一般PPより熱膨張が少ない

10. 低比重

プラスチック素材として最軽量

▶ CO₂削減

世界初の新シートを開発④

産業分野における新OPP、新OPP積層シートの可能性

新OPPの用途

1. 塗装レス加飾バンパー

- リサイクルが容易
- 剛性力がアップすることで、
軽量化・プラスチック使用量削減によりコストダウン



2. 耐薬品性家電部品

- 耐薬品性の向上
- 剛性力がアップすることで軽量化
- 加飾フィルムによる光沢アップ

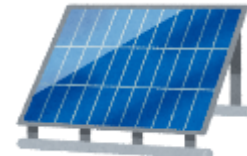


新OPP積層シートの用途

1. 自動車ルーフ材



2. ペロブスカイト 太陽電池シート基材



3. スーツケース



4. すりガラス代替品



5. バントラック向け加飾パネル

企業価値拡大に向けて

「もっとも高品質で環境に配慮した製品を」

「どこよりも競争力のある価格で」

「必要なときに確実にお届けする」



添付資料

用語解説

PS	ポリスチレン
PET	ポリエチレンテレフタレート
PP	ポリプロピレン
エコトレー	スーパーで店頭回収された発泡PS容器と工場内端材を原料とするリサイクル発泡PS容器（1992年販売開始）
エコAPET容器	スーパーで店頭回収されたPET 透明容器・PETボトル及び工場内端材を原料とするリサイクルPET透明容器（2012年販売開始） 耐熱温度+60℃
エコOPET容器	エコAPET容器と同じ原料を使用する二軸延伸PET（OPET）シートから成形したリサイクルOPET透明容器（2016年販売開始） 耐油性に優れ、透明度も高くOPS容器と同等の耐熱性を実現 耐熱温度+80℃
新低発泡PSP容器	非発泡容器と同等の強度及びシャープな形状を維持しながら、プラスチック使用量を削減した発泡PS容器 非発泡容器と比較して50%~60%軽量化
マルチFP(MFP)容器	-40℃~+110℃の耐寒・耐熱性、耐油性及び断熱性に優れた発泡PS容器（2010年販売開始）
マルチソリッド(MSD)容器	マルチFPの端材を活用し、その特性を維持しつつシャープな形状を実現した非発泡PS容器（2012年販売開始） 耐熱温度+110℃
透明PP容器	標準グレードのPP原料から、OPSと同程度の透明度を実現した透明PP容器 耐熱温度+110℃（2012年販売開始）
耐寒PPiP-タルク容器	二種類の無機物を配合することで、従来品である耐寒PPと比較してプラスチック使用量を25%削減した耐寒PPファイラー容器 従来品と同等の耐寒衝撃性、天地圧縮強度、重量を保持
OPS容器	従来からの二軸延伸PSシートから成形した透明容器 耐熱温度+80℃
HIPS容器	剛性に優れ成形性が良い非発泡PS容器 耐熱温度+90℃
溶解分離リサイクル	マテリアルリサイクルにより生産された黒色PSペレットを溶解、脱色したうえで、食品容器向けの再生PS原料を生産する手法 DIC(株)が開発した世界初の技術（2024年11月稼働予定）
PC（プロセスセンター）	食品の生産及び配送を一括して行うセンター
配送センター	製商品の入荷から受注・配車・出荷・トレー回収までを行う物流拠点
ハブセンター	複数の棟をソーターシステムで連結し、出荷の自動仕分け、集約を行う配送センター
DC（ディストリビューションセンター）	包材問屋向けにケース出荷を行う物流部門
PC（ピッキングセンター）	スーパーマーケット向けの小ロットピッキング出荷を行う物流部門
選別センター	店頭回収した発泡PS容器を白と色に、透明容器をPS・PET・PP等の素材に選別するリサイクル拠点

業績推移①

※2022年3月期より収益認識会計基準変更、2021年3月期のみ適及適用

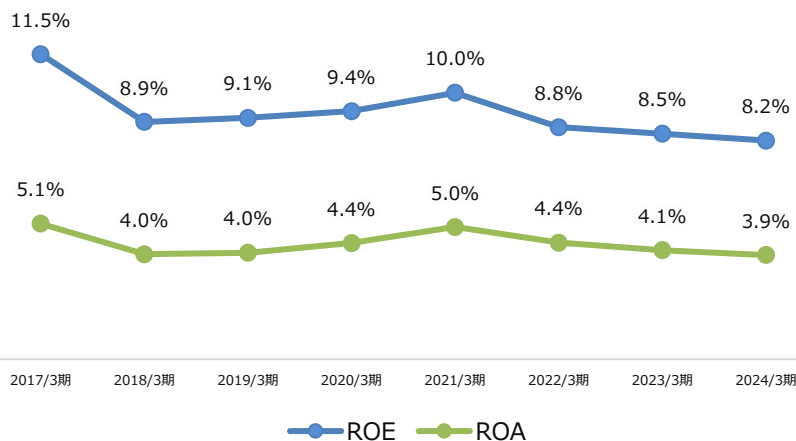
(百万円)

	2017/3期	2018/3期	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期	2024/3期
売上高	172,858	173,580	181,171	186,349	187,509	195,700	211,285	222,100
営業利益	15,176	12,884	13,949	15,507	18,763	15,884	16,703	16,429
経常利益	15,742	13,548	14,861	16,274	19,381	16,703	17,328	16,780
純利益	10,953	9,178	9,901	10,777	12,211	11,206	11,529	11,724
償却前経常利益	26,926	25,255	28,031	29,807	32,991	30,340	31,509	31,833
売上高経常利益率	9.1%	7.8%	8.2%	8.7%	10.3%	8.5%	8.2%	7.6%
ROE	11.5%	8.9%	9.1%	9.4%	10.0%	8.8%	8.5%	8.2%
ROA (総資産純利益率)	5.1%	4.0%	4.0%	4.4%	5.0%	4.4%	4.1%	3.9%
EPS (円/株)	132.43	111.01	119.75	130.36	147.80	136.96	140.87	143.50
配当 (円/株)	40.00	40.50	40.50	40.50	44.50	47.00	47.00	57.00
配当性向	30.2%	36.5%	33.8%	31.1%	30.1%	34.3%	33.4%	39.7%
自己株式取得	-	-	-	-	3,999	-	-	2,999
総資産	219,481	244,147	249,332	242,497	247,234	262,695	298,623	298,580
純資産	99,721	106,219	112,198	119,301	124,980	132,455	140,171	145,844
現預金	18,144	15,659	19,151	20,288	17,884	19,745	22,255	23,707
有利子負債	80,551	91,991	91,402	80,341	73,459	80,174	102,008	92,785
自己資本比率	45.3%	43.4%	44.8%	49.0%	50.3%	50.2%	46.7%	48.6%
設備投資	21,060	29,891	14,038	12,214	19,412	23,361	30,853	9,591
減価償却費	11,183	11,706	13,170	13,532	13,609	13,636	14,180	15,052
研究開発費	1,223	1,197	1,159	1,229	1,195	1,154	1,295	1,483
オリジナル製品比率	52.3%	55.7%	59.2%	60.5%	62.0%	61.9%	63.6%	66.1%
在庫回転月数 (ヶ月)	1.47	1.53	1.54	1.48	1.44	1.44	1.56	1.57
リサイクル回収重量 (t)	36,631	55,262	75,730	82,700	85,000	83,330	91,400	90,500
リサイクル回収拠点数 (カ所)	9,200	9,150	9,260	9,390	9,800	10,000	10,500	10,680

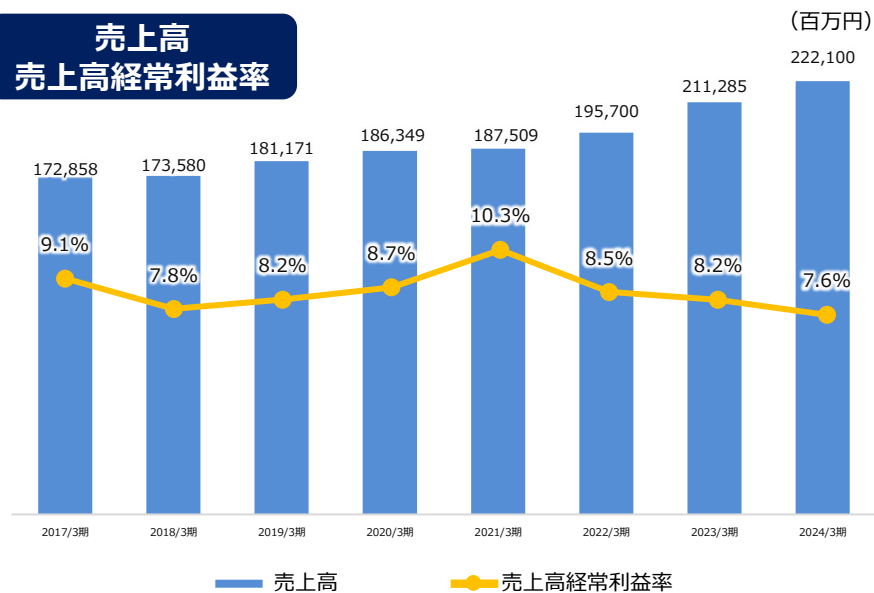
業績推移②

※2022年3月期より収益認識会計基準変更、2021年3月期のみ遡及適用

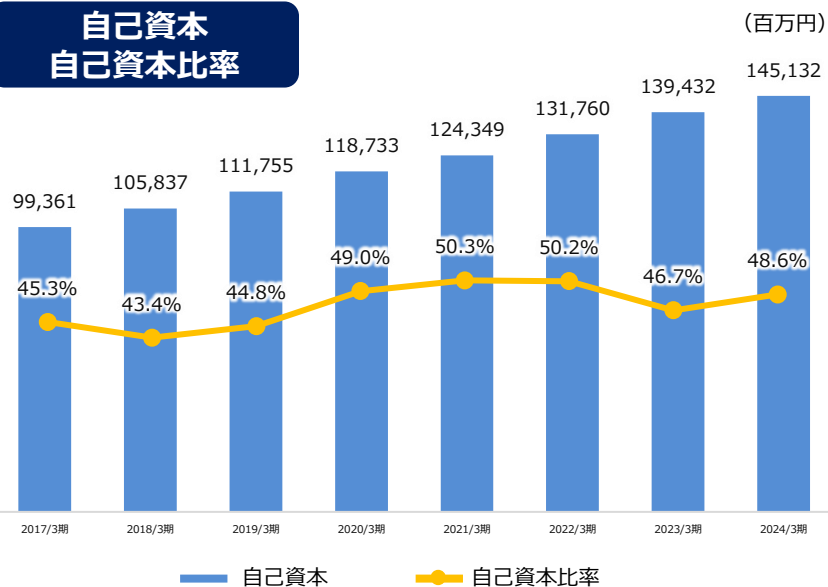
ROE ROA



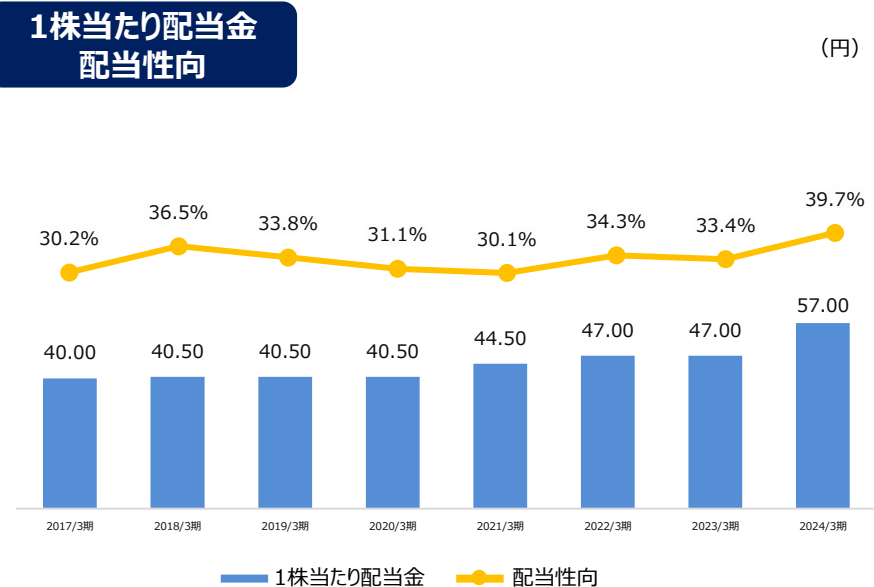
売上高 売上高経常利益率



自己資本 自己資本比率



1株当たり配当金 配当性向

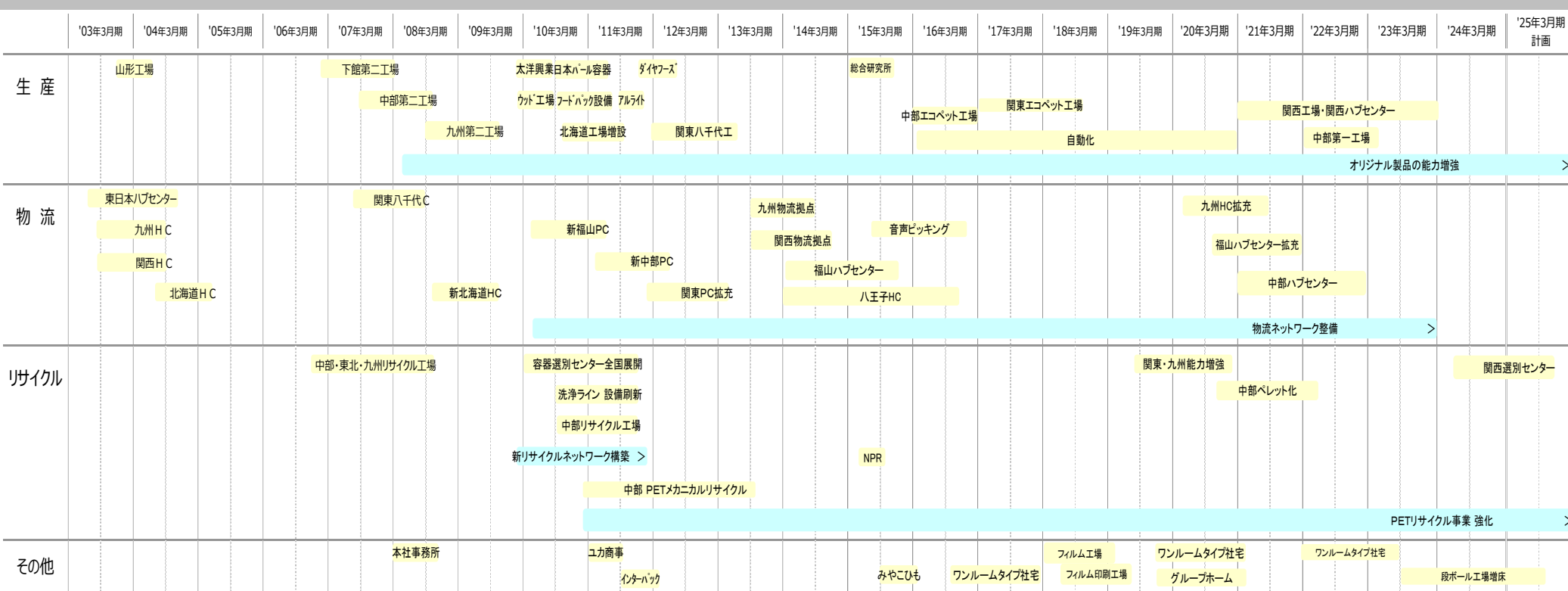


經常利益 増減要因 推移

単位：億円

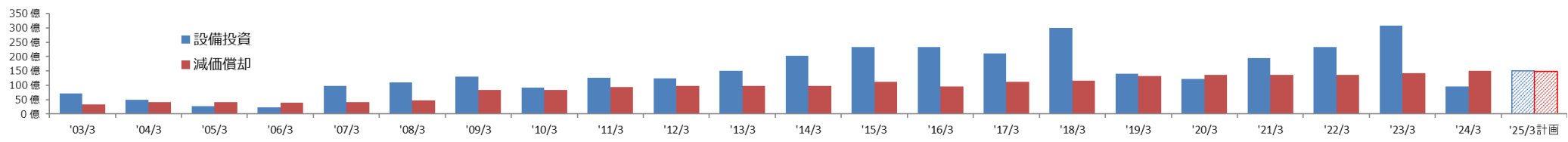
	'03/3	'04/3	'05/3	'06/3	'07/3	'08/3	'09/3	'10/3	'11/3	'12/3	'13/3	'14/3	'15/3	'16/3	'17/3			'18/3			'19/3			'20/3			'21/3			'22/3			'23/3			'24/3			'25/3(計画)		
	上	下	通期	上	下	通期	上	下	通期	上	下	通期	上	下	通期	上	下	通期	上	下	通期	上	下	通期	上	下	通期	上	下	通期	上	下	通期	上	下	通期	上	下	通期		
前期 經常利益	63.1	28.6	33.6	36.3	66.5	81.2	64.5	92.9	122.2	134.7	149.5	151.2	100.5	101.1	66.3	74.0	140.3	79.1	78.3	157.4	66.3	69.2	135.5	64.8	83.8	148.6	74.4	88.3	162.7	85.6	108.2	193.8	89.1	77.9	167.0	64.0	109.1	173.2	72.3	95.4	167.8
原料価格	-6.0	-13.8	-36.5	-10.0	-13.0	-39.5	-37.0	-25.0	原料値下り	+78.0	原料値下り	+31.0	+20.0	+3.0	+23.0	-13.0	-13.0	-26.0	-14.8	-15.5	-30.3	+2.5	+5.2	+7.7	+11.0	+3.0	+14.0	-9.9	-36.1	-46.0	-24.4	+23.8	-0.6	-17.5	-13.9	-31.4	-10.0	-30.0	-40.0		
販売価格	-25.0	+7.7	+29.2	+4.0	+9.0	+38.0	+25.0	+32.0	+6.5	ナゾ変動	-11.0	-12.5	-11.0	-23.5	-	+4.5	+4.5	+13.6	+28.0	+41.6	+10.5	-	+10.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
販売活動																																									
生産	+2.4	-0.6	-2.0	+6.0	+8.7	+3.0	+2.5	+9.5	+12.0	+9.0	+2.5	+1.0	+4.0	+12.0	+3.2	+1.1	+4.3	-3.2	-4.0	-7.2	-0.5	-	-0.5	+1.0	+1.5	+2.5	-1.5	+3.5	+2.0	+3.5	-1.5	+2.0	+1.5	-1.0	+0.5	-19.5	+7.4	-12.1	+3.0	-5.0	-2.0
物流	+0.3	-14.0	+12.2	+5.5	+8.0	+5.7	+5.0	+9.5	+8.0	+4.0	+1.5	+1.0	-1.0	+1.5	-3.0	-2.7	-5.7	+0.5	+1.0	+1.5	-1.5	-3.0	-4.5	-4.0	-3.5	-7.5	-0.5	+1.5	+1.0	+2.5	+2.5	+5.0	-	-	-	-4.0	-3.0	-7.0	-6.0	-4.0	-10.0
グループ会社																																									
経費増減	-6.2	-19.3	-3.2	+4.2	-7.4	-9.7	-15.6	-12.7	-11.5	-13.2	-15.3	-17.0	-22.0	-17.6	-3.7	-2.4	-6.1	-3.1	-2.3	-5.4	-3.3	-3.6	-6.9	-5.9	-3.8	-9.7	-4.3	-4.4	-8.7	-7.6	-3.2	-10.8	-8.1	-5.9	-14.0	-5.1	-4.4	-9.5	-8.3	-2.5	-10.9
増減計	-34.5	+5.0	+2.7	+30.2	+14.7	-16.7	+28.4	+29.3	+12.5	+14.8	+1.7	-51.0	+0.5	+39.2	+12.8	+4.3	+17.1	-12.8	-9.1	-21.9	-1.5	+14.6	+13.1	+9.6	+4.5	+14.1	+11.2	+19.9	+31.1	+3.5	-30.3	-26.8	-25.0	+31.3	+6.3	+8.2	-13.7	-5.4	-7.3	+19.5	+12.1
当期 經常利益	28.6	33.6	36.3	66.5	81.2	64.5	92.9	122.3	134.7	149.5	151.2	100.5	101.1	140.3	79.1	78.3	157.4	66.3	69.2	135.5	64.8	83.8	148.6	74.4	88.3	162.7	85.6	108.2	193.8	89.1	77.9	167.0	64.1	109.2	173.3	72.3	95.4	167.8	65.0	115.0	180.0

設備投資 推移



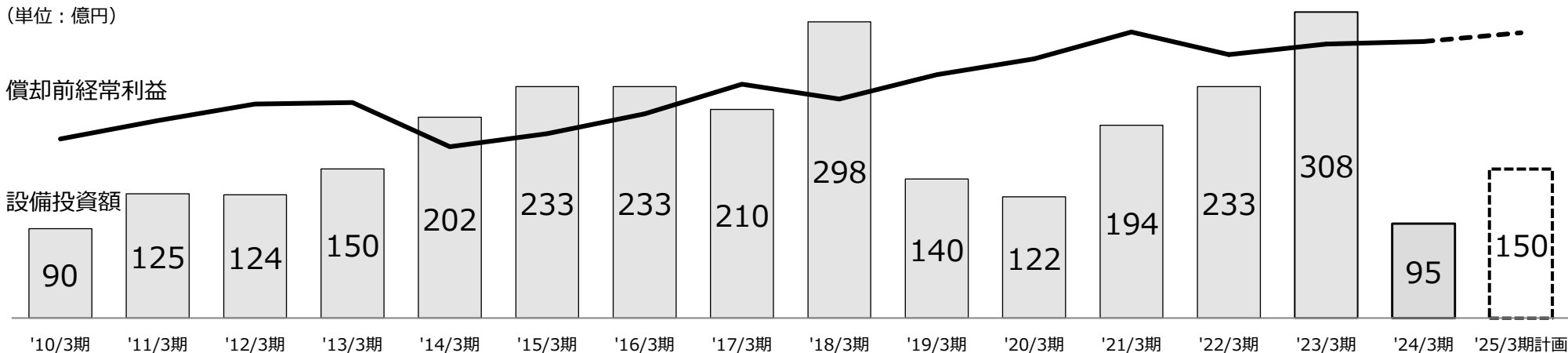
単位：百万円

	'03/3	'04/3	'05/3	'06/3	'07/3	'08/3	'09/3	'10/3	'11/3	'12/3	'13/3	'14/3	'15/3	'16/3	'17/3	'18/3	'19/3	'20/3	'21/3	'22/3	'23/3	'24/3	'25/3 計画
設備投資	7,096	5,037	2,742	2,394	9,885	10,909	13,007	9,090	12,585	12,423	15,087	20,258	23,377	23,383	21,060	29,891	14,038	12,214	19,412	23,361	30,853	9,591	15,000
有形	6,138	4,248	2,621	2,156	9,523	10,655	12,166	8,827	12,352	12,093	14,783	19,751	23,051	23,058	20,790	29,342	13,442	11,688	19,105	23,084	30,121	9,098	14,500
無形	958	789	120	238	362	254	841	263	233	329	303	506	325	324	269	549	595	525	306	277	732	493	500
内金型	780	460	436	550	771	609	1,892	1,507	1,833	1,946	1,425	2,151	2,416	1,777	2,028	1,485	1,462	1,756	1,426	2,028	1,753	1,436	1,872
減価償却	3,339	4,210	4,134	3,965	4,194	4,742	8,467	8,461	9,316	9,728	9,746	9,703	11,136	9,526	11,183	11,706	13,170	13,532	13,609	13,636	14,180	15,052	14,800
研究開発	654	628	689	751	895	913	965	1,035	1,101	1,051	1,062	1,148	1,105	1,242	1,223	1,197	1,159	1,229	1,195	1,154	1,295	1,483	1,610



>>'09年3月期より設備投資には、リース調達を含む投資額を表示しております。

戦略投資



年間約**200**億円の投資水準

世界初の素材開発

- 2010年 マルチFP製品 上市
- 2012年 マルチソリッド製品 上市
- エコAPET 製品 上市
- OPET 製品 上市
- 新透明PP 製品 上市
- 2014年 PPI-タルク 製品 上市
- 2022年 耐寒PPI-タルク 製品 上市

生産・リサイクル強化

- 2012年 関東八千代工場
- 2016年 中部エコペット工場
- 2017年 関東エコペット工場
- 2018年 エピコアルライト工場
- エピコグラビア工場
- 2022年 中部第一工場
- 2023年 関西工場

物流網強化

- 2012年 中部ピッキング
- 2014年 福山クロスドックセンター
- 八王子配送センター
- 2020年 九州配送センター拡充
- 福山ハブセンター拡充
- 2021年 中部クロスドックセンター拡充
- 2023年 関西ハブセンター

人への投資

- 2014年 総合研究所・人材開発研修センター
- 2018年 広島営業所
- 2019年 エピコインターパック本社 单身寮PicoHouse(総戸数:473戸)
- 2017年 1号館(150戸)
- 2号館(102戸)
- 2020年 3号館(63戸)
- 4号館(18戸)
- 2022年 5号館(140戸)

電子レンジ・冷凍市場拡大

ESG投資拡大

路線便値上がり

人手不足

株主との対話の推進について

● 機関投資家向け 各種説明会の実施（2022年度～2023年度）

開催時期	説明会名称	内容	主な登壇（スピーカー）
決算関連			
11月	第2四半期 決算説明会	業績予想および 企業価値向上に向けた取り組み	代表取締役会長 代表取締役社長 専務取締役（経理財務・IR担当）
5月	決算説明会		
その他イベント			
2022年12月	国内証券 スモールミーティング	業績動向および成長戦略	代表取締役会長
2023年 1月	国内証券 投資家工場見学	生産・物流・リサイクル工場等の施設見学	専務取締役（経理財務・IR担当）、部門長
2023年 2月	国内証券 海外投資家カンファレンス	業績動向および成長戦略	代表取締役会長、専務取締役（経理財務・IR担当）
2023年 6月	国内証券 トップミーティング	業績動向および成長戦略、当社製品の体験	代表取締役会長、専務取締役（経理財務・IR担当）
2023年 9月	国内投信 個人投資家向け説明会	エフピコ方式リサイクルの認知向上	IR担当、部門長
2023年12月	国内投信 投資家工場見学	生産・物流・リサイクル工場等の施設見学、成長戦略	専務取締役（経理財務・IR担当）、部門長
2024年 3月	国内証券 海外投資家カンファレンス	業績動向および成長戦略	代表取締役会長、専務取締役（経理財務・IR担当）

● 個別対話概要（2022年度～2023年度）

延べ対話社数	投資家概要	対応者（案件により異なる）
約400社	中長期を中心とした幅広い投資スタイルの国内外機関投資家 多様な担当分野（アナリスト、ファンドマネージャー、ESG担当等）	代表取締役会長、代表取締役社長、独立社外取締役、 専務取締役（経理財務・IR担当）、常務取締役（総務人事 担当）、サステナビリティ推進室

● 個別工場見学（2022年度～2023年度）

延べ対応社数	対応拠点	対応者（案件により異なる）
約20社	関東、中部、関西、福山	専務取締役（経理財務・IR担当）、部門長

世界初の素材・シート

PP : ポリプロピレン

- ☆ 耐熱性がある : +110℃
- ☆ 耐油性に優れる
- ★ 発泡が難しく、軽量化しにくい
- ★ コシ強度が低い
- ★ 耐寒性に劣る
- ★ 透明性が出難い

耐寒PP-タルク

- ☆ 従来品である耐寒PPと比較してプラスチック使用量を25%削減
- ☆ 従来品と同等の耐寒衝撃性、天地圧縮強度重量を保持

PS : ポリスチレン

PSP : 発泡PS

- ☆ 成形性が良い
- ☆ 原材料比率が低い
- ☆ 軽量化が可能
- ☆ 断熱性が高い
- ★ 耐熱性が低い : +80℃
- ★ 耐油性に劣る

新透明PP

- ☆ 耐熱性がある : +110℃
- ☆ 耐油性に優れる
- ☆ 透明性がOPSと同等

PET : ポリエチレンテレフタレート

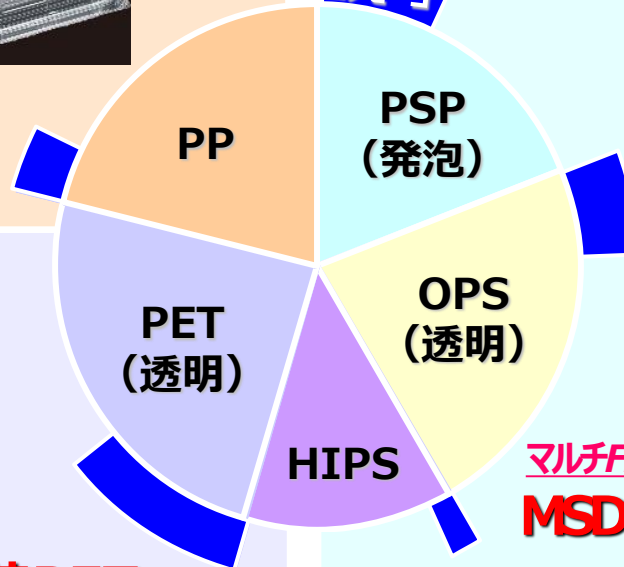
- ☆ 透明性が高い
- ☆ 耐油性に優れる
- ★ 耐熱性が低い : +60℃
- ★ 比重が大きい

OPET : 二軸延伸PET

- ☆ 透明性が高い
- ☆ 耐油性に優れる
- ☆ 耐熱性がOPSと同等 : +80℃
- ☆ 延伸により軽量化が可能
- ★ 成形が難しい



エフピコ



MFP : マルチFP : 発泡PS

- ☆ 成形性が良い
- ☆ 原材料比率が低い
- ☆ 断熱性が高い
- ☆ 耐油性に優れる
- ☆ 幅広い温度帯をカバー
-40℃ ~ +110℃
- ☆ コシ強度がある
- ☆ 軽量化が可能



マルチFP端材の循環

MSD : マルチリッド : 非発泡PS

OPS : 二軸延伸PS

- ☆ 透明性がある
- ☆ 耐熱性 : +80℃
- ★ 耐油性に劣る
- ★ 軽量化に限界



小売動向

出所：一般社団法人日本スーパーマーケット協会（既存店、売上前年比）

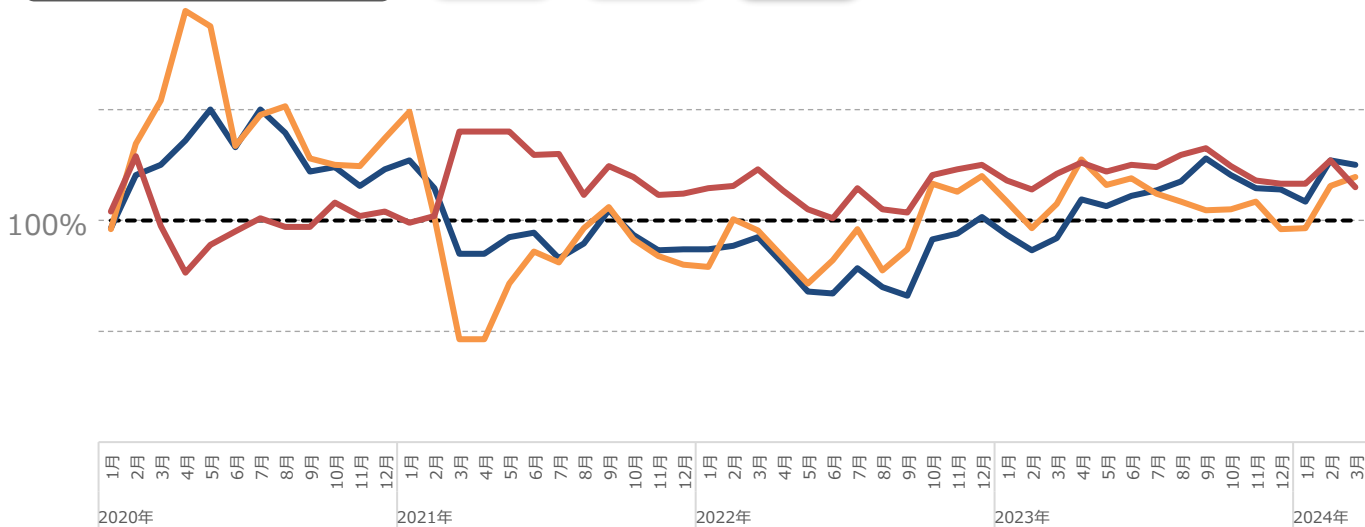
出所：一般社団法人日本フランチャイズチェーン協会（既存店、前年比）

スーパーマーケット

水産

畜産

惣菜



水産

- 燃料費の高騰
- 漁獲量の減少

畜産

- 飼料の高騰

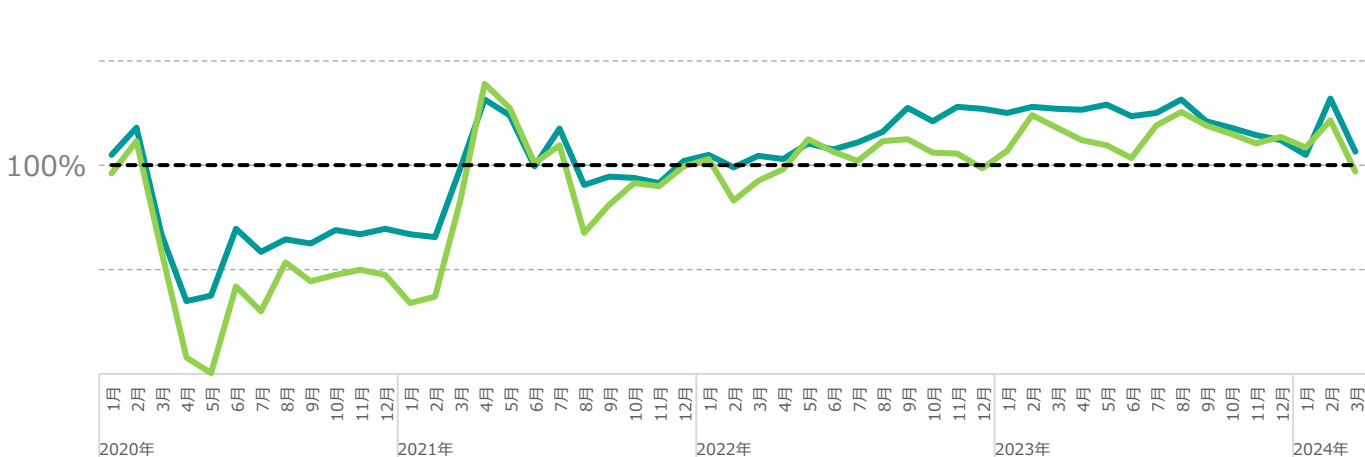
惣菜

- 買い上げ点数が維持され、一品単価が上昇
- 行楽需要やイベントの再開により好調

コンビニエンスストア

売上(日配)

客数



売上

- 一品単価上昇
- 来店客数の回復

客数

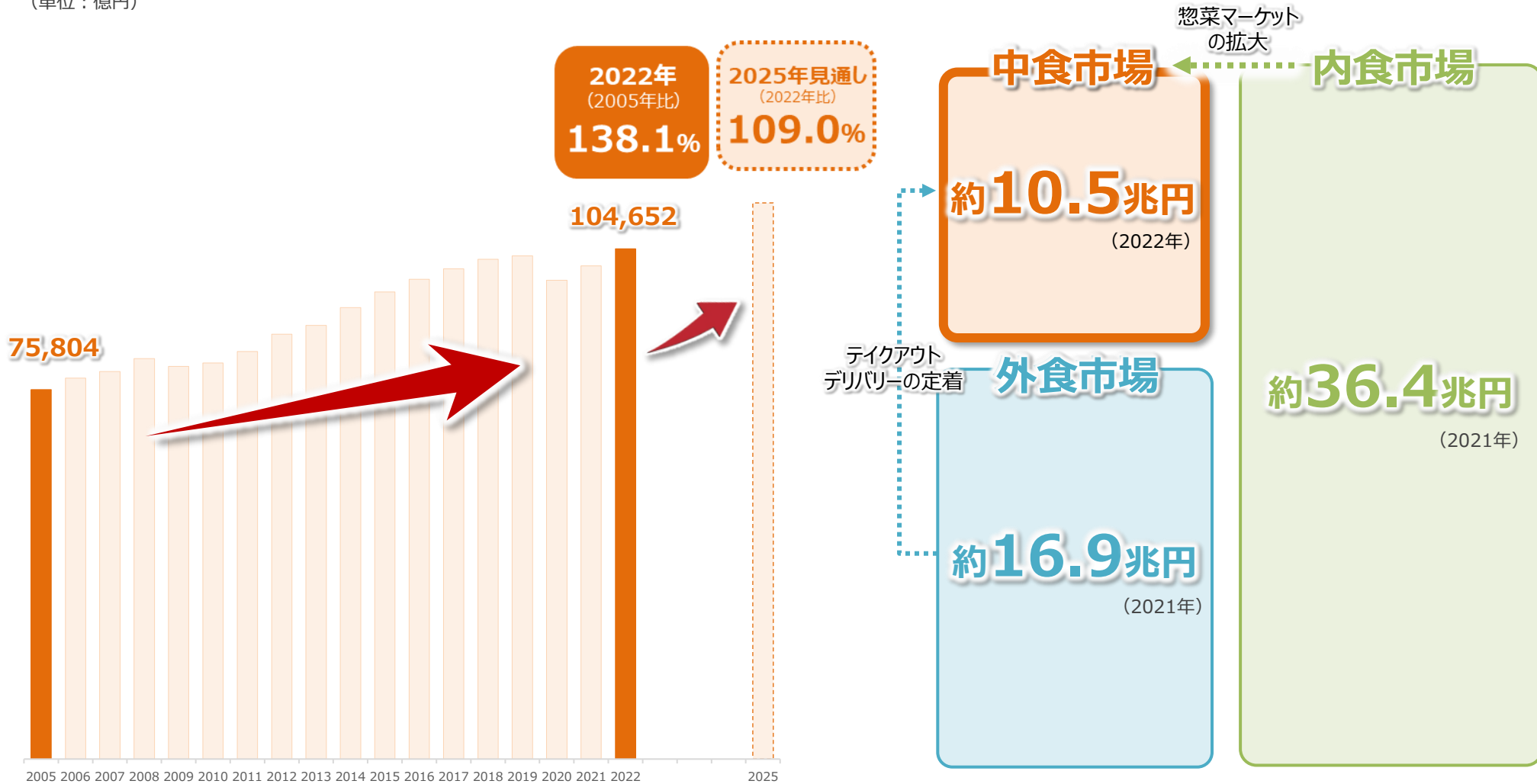
- リオープンに伴う外出の増加
- イベントの再開により好調

中食市場の拡大

出典：一般財団法人 日本惣菜協会「2023年版惣菜白書」

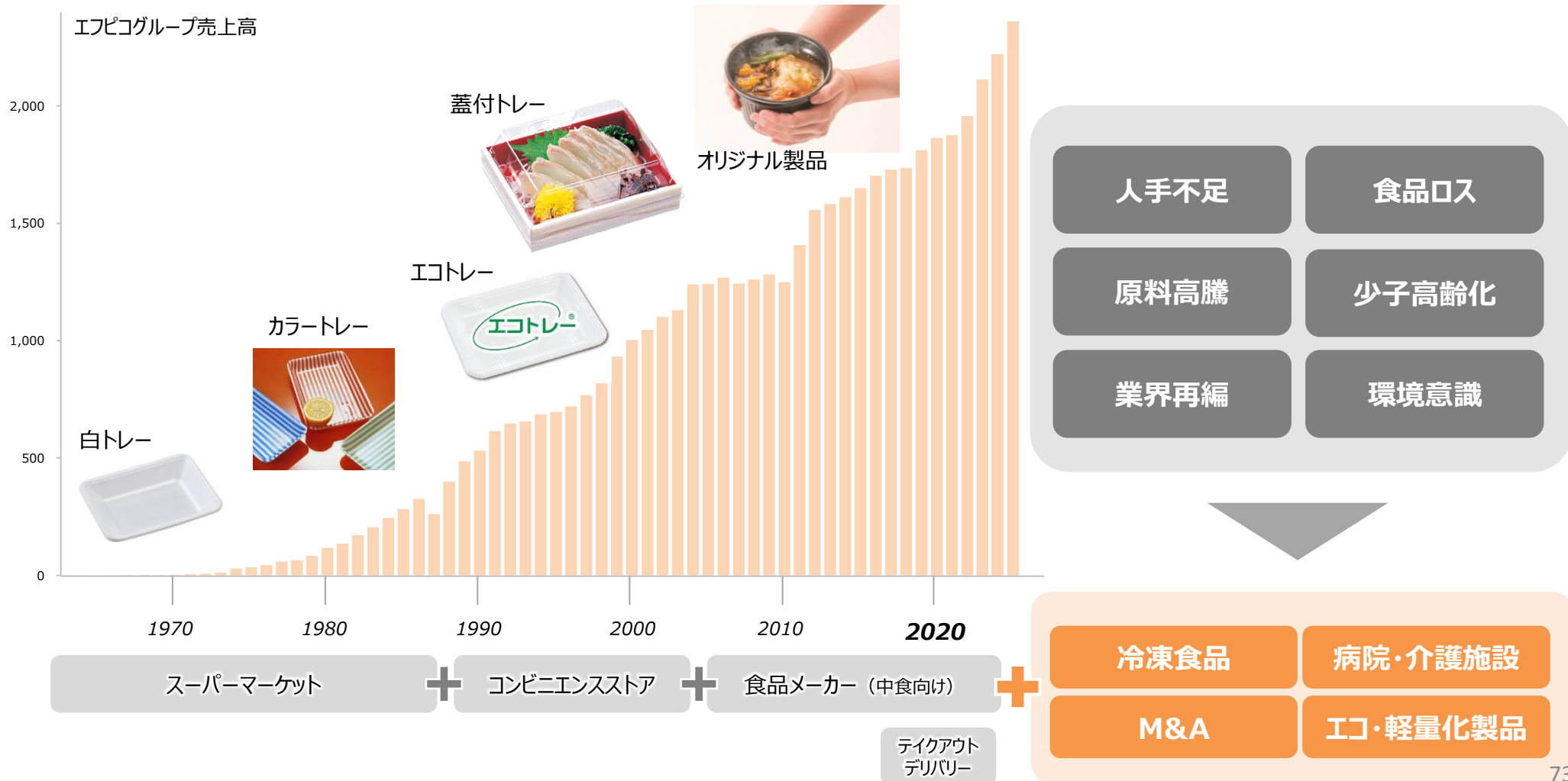
中食市場規模推移

(単位：億円)

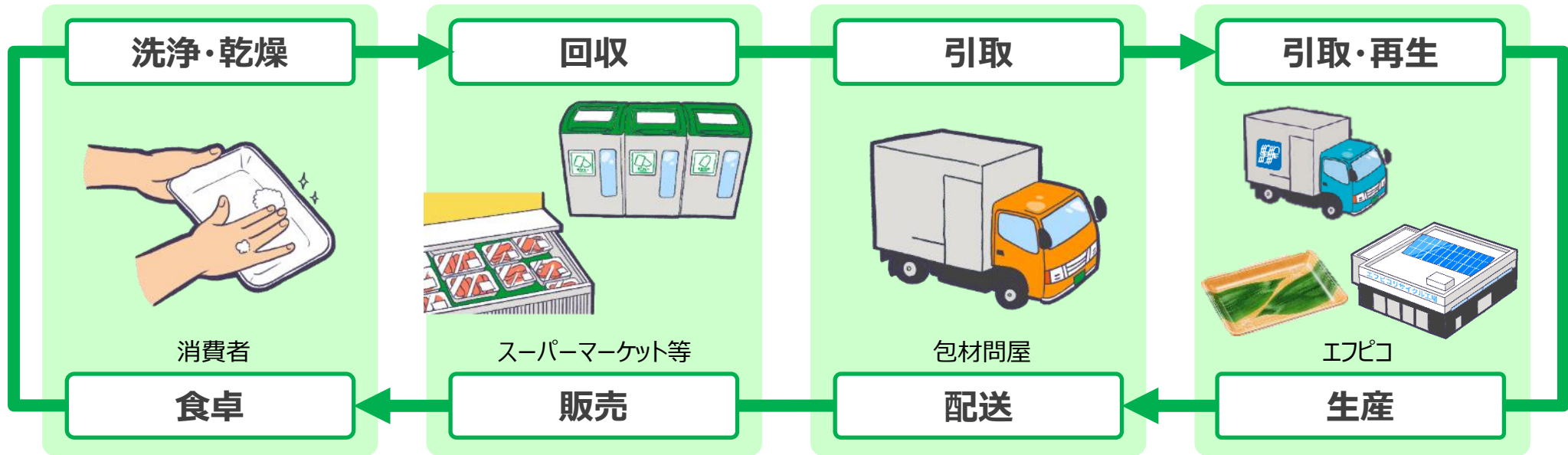


食品容器マーケットの推移と当社業績の拡大

マーケットの変化に応じた製品を提供／当社製品がマーケットの変化を創出



エピコ方式のリサイクル



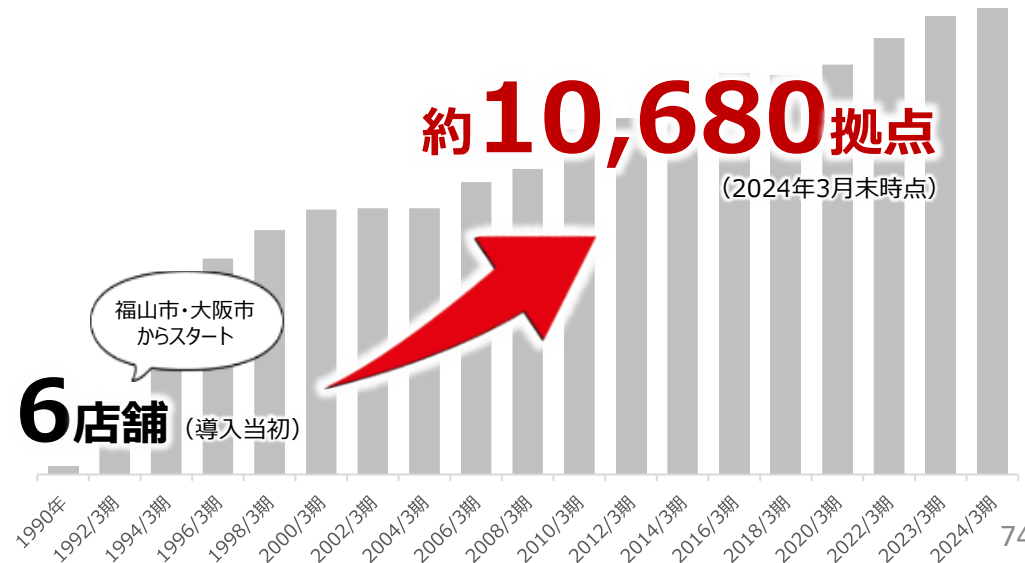
歴史

容器包装から紙包装へ変更

- 1980年 広島ゴミ問題
- 1990年 米国 マクドナルド不買運動
- 1990年 エピコ方式のリサイクル開始
- 1992年 「エコトレー」の販売開始
- 1995年 容器包装リサイクル法制定
- 1997年 京都議定書
- 2008年 透明容器のリサイクル開始
- 2011年 PETボトルのリサイクル開始
- 2012年 「エコPET」の販売開始
- 2015年 パリ協定
- 2021年 プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律制定



回収拠点数

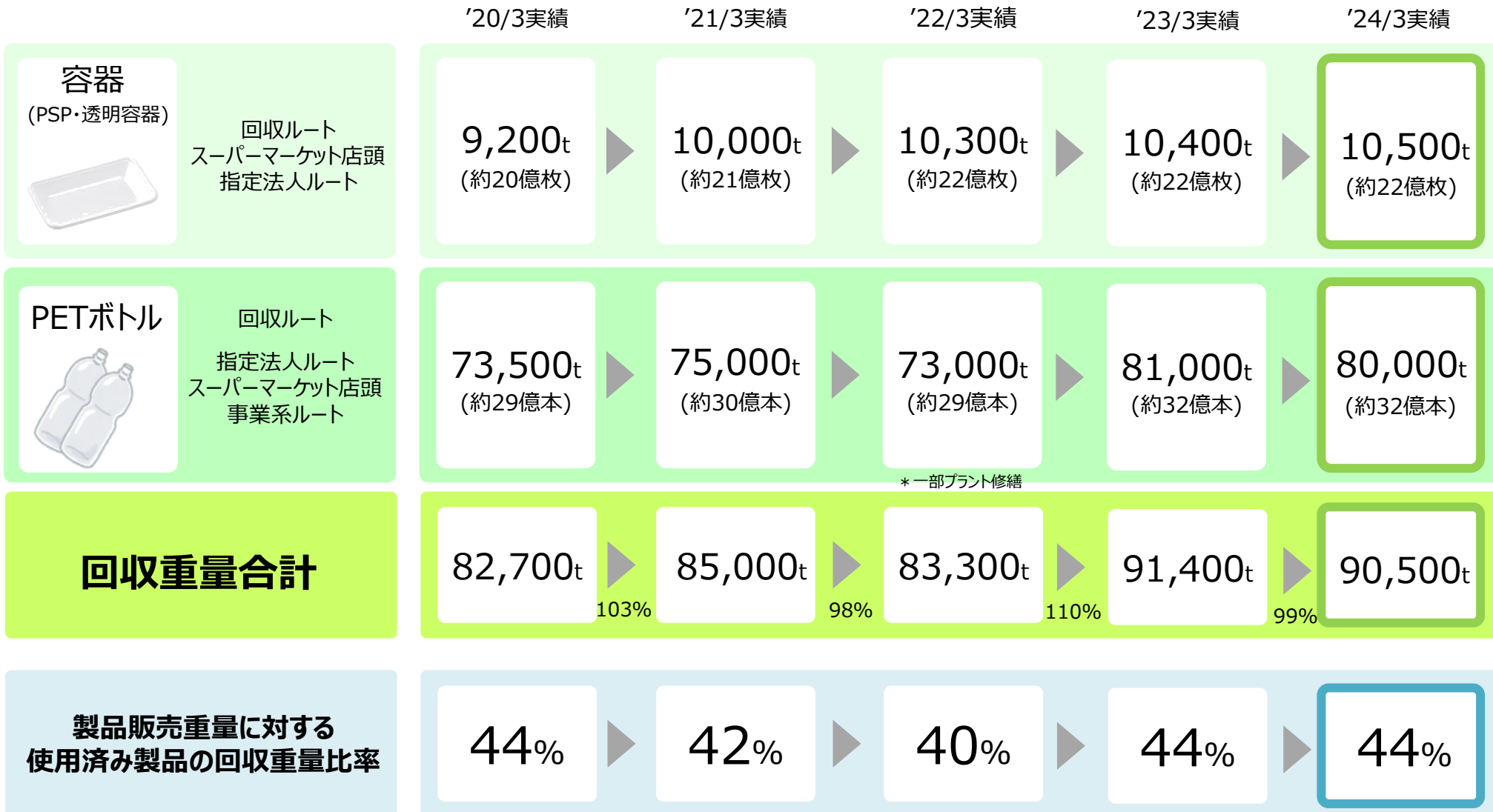


プラスチック資源の回収



※枚数・本数は、標準的なグラム数にて換算
 PSP : 4 g、透明容器 : 10 g、PETボトル : 25 g

回収重量



全国を網羅する生産・物流拠点

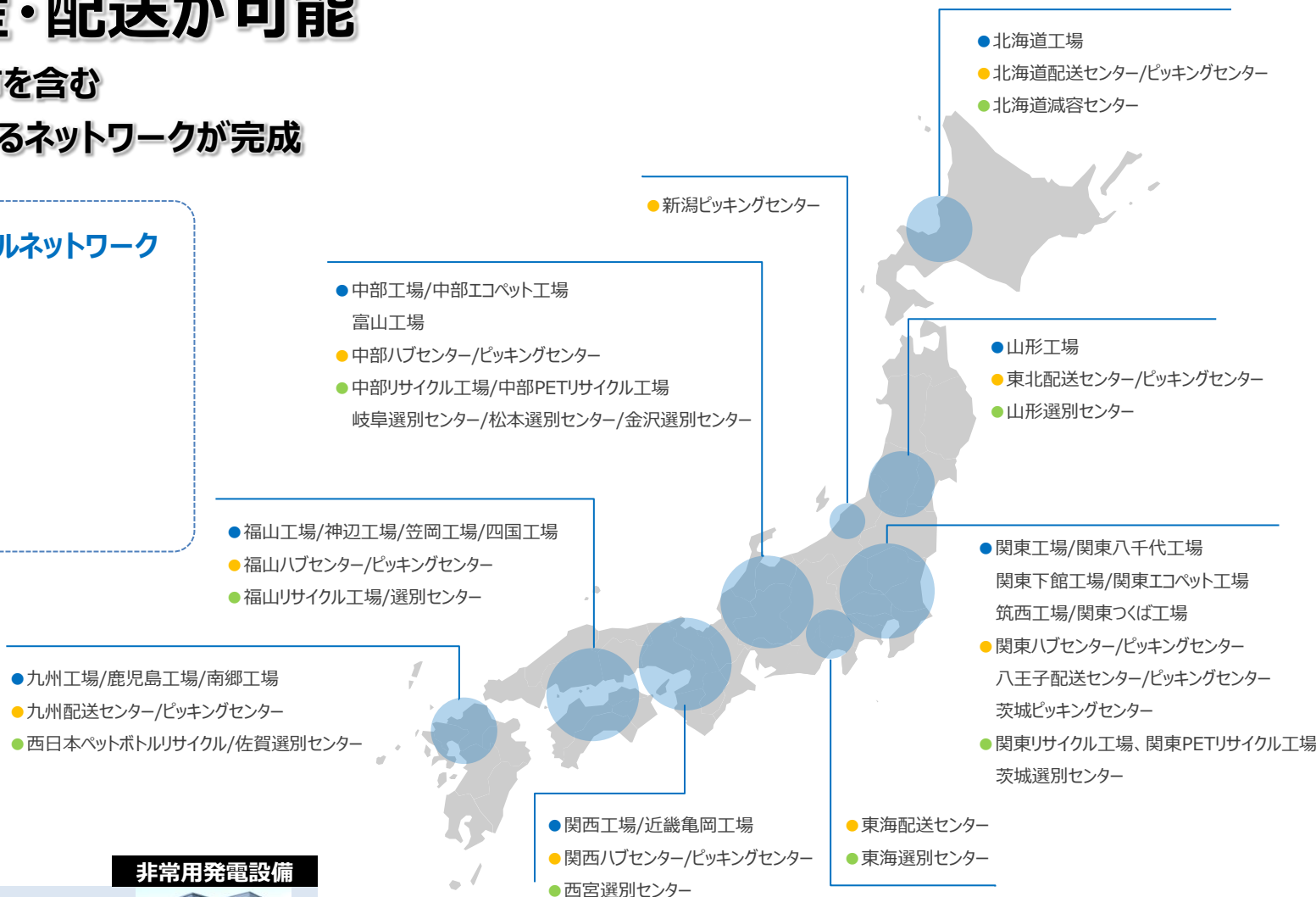
各エリアで 生産・配送が可能

半径100kmで主要都市を含む

全人口の85%をカバーするネットワークが完成

エフピコの製造・物流・リサイクルネットワーク

- 生産工場 20拠点
- 配送・ハブセンター 9拠点
- ピッキングセンター 10拠点
- リサイクル工場 3拠点
- PETリサイクル工場 3拠点
- 選別・減容センター 10拠点

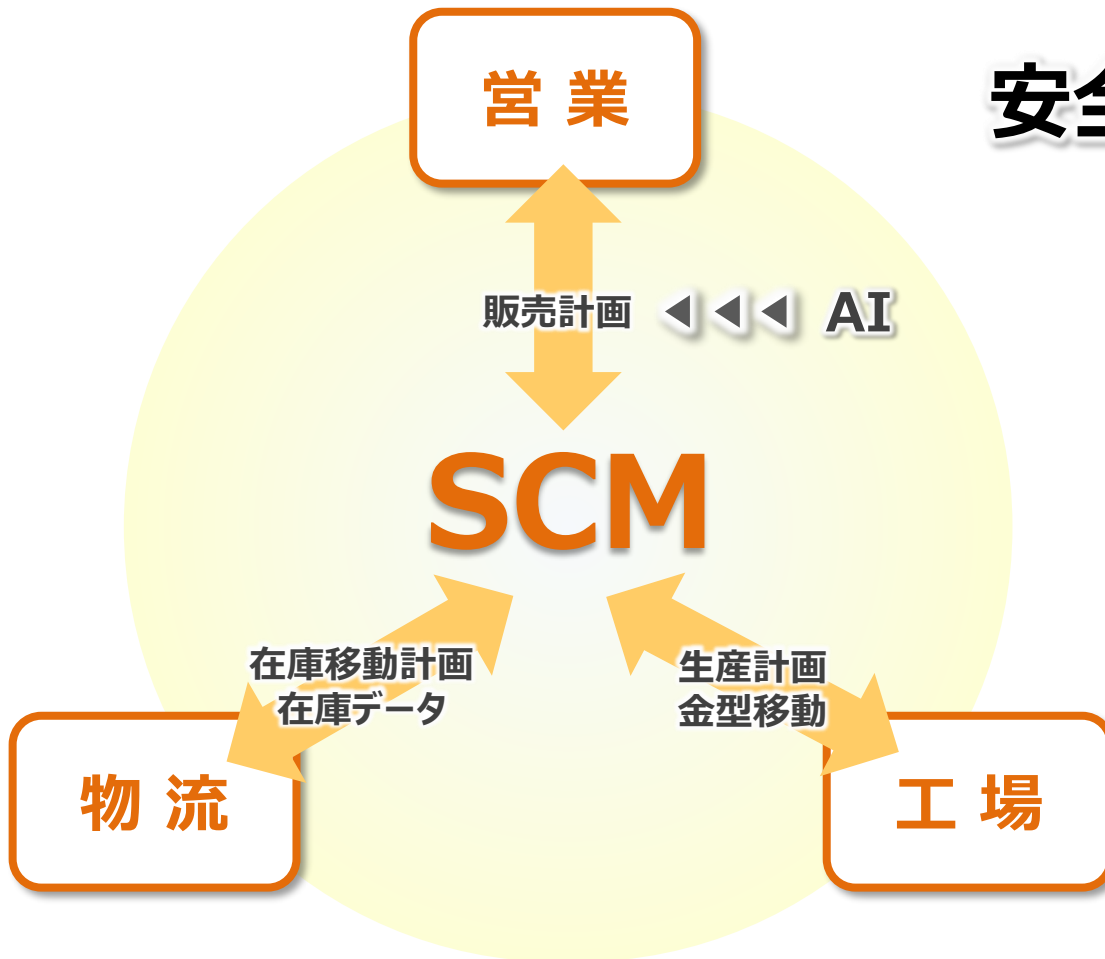


非常用発電設備



B C P (事業継続計画) “災害時の安定供給”
全国の物流施設すべてに非常用発電設備を設置
72時間の電力供給を確保

サプライチェーン・マネジメントシステム（SCM）



**安全・安心な食生活を支える
安定供給**

- ✓ 約12,000アイテムの品揃え
- ✓ 適切な在庫水準を維持
- ✓ AI活用による
販売予測の精度向上・効率化

物流費上昇を抑制する取り組み

自便比率 2024年3月期

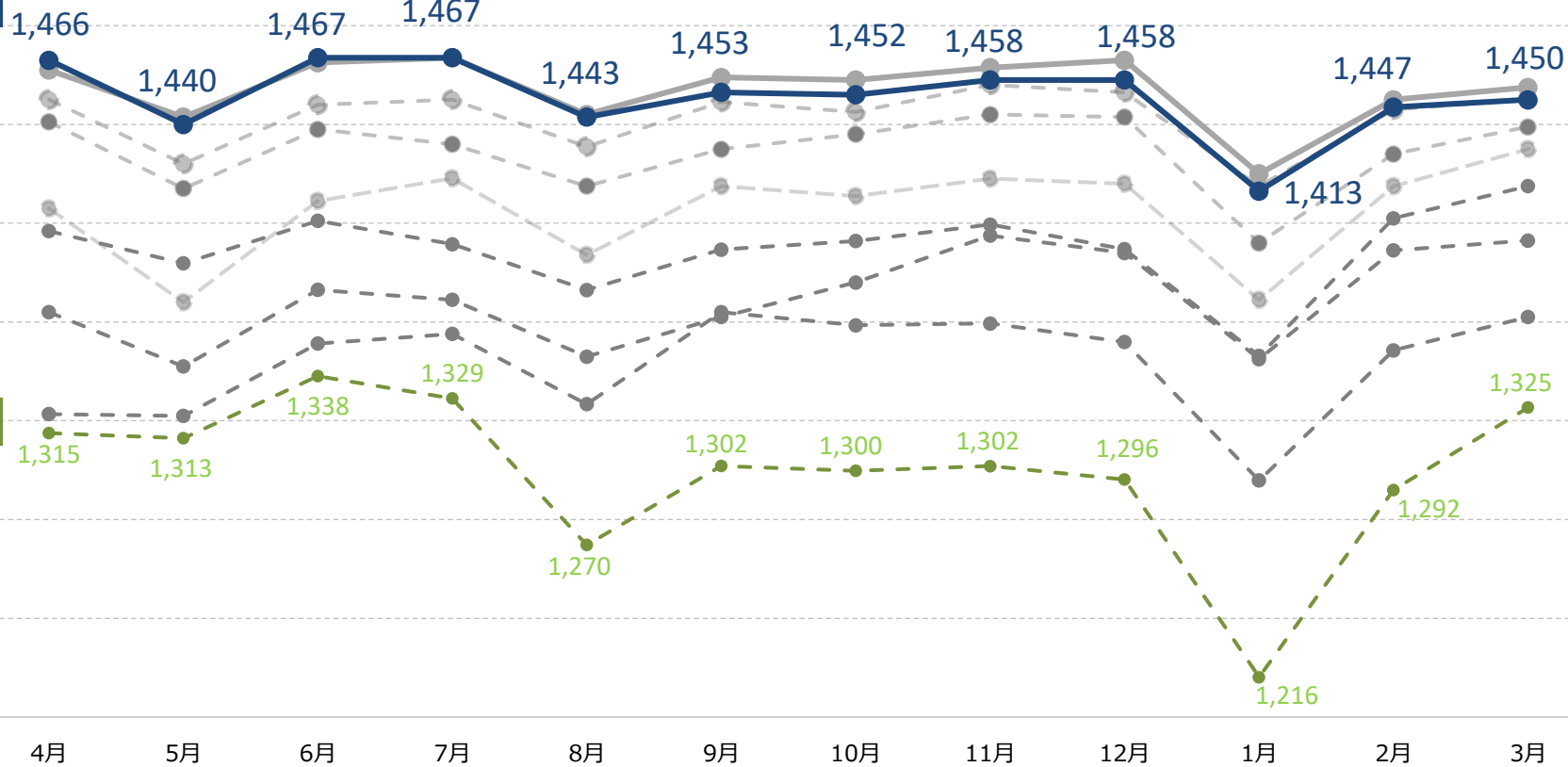
97.7%

1台あたりの積載効率 111.6% 2024年3月期 2016年3月期比

(才数/台)

'24年3月期

'23年3月期
'22年3月期
'21年3月期
'20年3月期
'19年3月期
'18年3月期
'17年3月期
'16年3月期



外部評価機関によるESG評価

レーティング

FTSE (英)

(2022年3月) (2023年6月)

3.2 → 3.8

MSCI (米)

(2022年1月) (2023年3月)

BB → BB

S&P CSA (米)

(2022年9月) (2023年9月)

38 → 40

CDP (英)

(2022年12月) (2024年2月)

A- → A



SUSTAINALYTICS (蘭)

(2022年11月) (2023年12月)

14.4 → 13.9

※低い程良い

ESG指数



FTSE4Good



FTSE Blossom
Japan Index



FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index



2023 CONSTITUENT MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)

Morningstar
Japan ex-REIT Gender Diversity
Tilt Index (GenDi J)

その他外部機関からの評価・活動

外部評価



環境関連参画団体



能力を最大限に活かすダイバーシティ経営

8 働きがいも
経済成長も



10 人や国の不平等
をなくそう



エフピコグループの基幹業務で活躍

お客様の障がい者雇用をサポート

障がい者雇用人数

393名

エフピコをサポートで
お取引様を中心に

障がい者雇用率換算数

662名

53事業所 760名

の雇用が生まれました
(2024年3月末時点)

障がい者雇用率

12.6% (2024年3月末時点)



製造

食品トレー容器の成形、
組立加工、検品、包装



選別

使用済み食品トレー
透明容器



● 障がい者雇用に関する評価

- ▶ 2019年1月 (厚労省) 「H30年度 障害者活躍企業」認証 ※エフピコダックス(株)
- ▶ 2022年6月 (厚労省) 「障害者雇用に関する優良な中小事業主に対する認定 (もにす認定)」 ※エフピコダックス(株)
- ▶ 2023年9月 (東洋経済新報社) 「障害者雇用率ランキング」 2位





エフピコ環境基金
The FP Corp. Environment Fund

1990年 「エフピコ方式のリサイクル」をスタート
2020年3月 「エフピコ環境基金」を創設
これからの社会的課題の解決をテーマに活動する団体への助成

助成実績

2021年3月期： 10団体
2022年3月期： 14団体
2023年3月期： 14団体
2024年3月期： 22団体
2025年3月期： 17団体



助成先団体の活動（一部紹介）

エフピコグループ社員もボランティアとして参加

● 瀬戸内海宇治島クラブ（広島県）



<活動内容>
宇治島サニーアイランド・
グリーン作戦

● 湘南クリーンエイドフォーラム（神奈川県）



<活動内容>
～拾って調べて繋げる活動～
調べるビーチクリーンの
普及プロジェクト

施設見学のご案内

【随時受付】経営企画室：03-5325-7756

最新鋭の **生産** **物流** **リサイクル** をご覧いただけます

